Oracle® Business Intelligence Web Services ガイド

リリース 10.1.3.2

2007 年 5 月

ORACLE

Oracle Business Intelligence Web Services ガイド , リリース 10.1.3.2

部品番号：E05031-01

原本名：Oracle Business Intelligence Web Services Guide, Version 10.1.3.2

原本部品番号：B31769-01

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 :　このリリースの新機能

第 2 章 :　Oracle BI Web Services の概要

Simple Object Access Protocol とは　10

Oracle BI Web Services とは　10

Oracle BI Web Services における項目シグネチャの使用　10

Oracle BI Web Services インタフェースへのアクセス　11

Oracle BI Web Services ライセンスと権限　12

第 3 章 :　Oracle BI Web Services の構造体の説明

構造体とサービス　14

AccessControlToken 構造体　15

Account 構造体　16

AccountsFilter 構造体　16

ACL 構造体　16

AuthResult 構造体　17

CatalogItemsFilter 構造体　17

CatalogObject 構造体　18

ErrorInfo 構造体　18

ExportImportFlags 構造体　19

GetSubItemsParams 構造体　19

ImportError 構造体　20

ItemInfo 構造体　21

NameValuePair 構造体　22

Privilege 構造体　22

QueryResults 構造体　22

ReportHTMLOptions 構造体　23

　ReportHTMLLinksMode 列挙型　23

ReportParams 構造体　24

ReportRef 構造体　25
SAColumn 構造体　25
SASubjectArea 構造体　27
SATable 構造体　28
SAWLocale 構造体　28
SAWSessionParameters 構造体　29
SessionEnvironment 構造体　29
StartPageParams 構造体　30
UpdateACLParams 構造体　30
UpdateACLMode 列挙型　31
UpdateCatalogItemACLParams 構造体　31
Variable 構造体　32
XMLQueryExecutionOptions 構造体　32

第 4 章：　Oracle BI Web Services のサービスの説明

HtmlViewService サービス　34
HtmlViewService ブリッジとコールバック URL について　35
addReportToPage() メソッド　35
endPage() メソッド　36
getCommonBodyHTML() メソッド　37
getHeadersHTML() メソッド　37
getHTMLForReport() メソッド　38
setBridge() メソッド　38
startPage() メソッド　39
iBotService サービス　40
executeIBotNow() メソッド　40
MetadataService サービス　41
describeColumn() メソッド　41
describeSubjectArea() メソッド　42
describeTable() メソッド　43
getSubjectAreas() メソッド　44
ReplicationService サービス　45
export() メソッド　45
_import() メソッド　46
markForReplication() メソッド　47
ReportEditingService サービス　47

applyReportParams() メソッド 47
generateReportSQL() メソッド 48
SAWSessionService サービス 49
getCurUser() メソッド 49
impersonate() メソッド 50
impersonateex() メソッド 50
keepAlive() メソッド 51
logoff() メソッド 51
logon() メソッド 52
logonex() メソッド 52
GetSessionEnvironment() メソッド 53
SecurityService サービス 53
forgetAccount() メソッド 54
getCatalogAccountsDatabase() メソッド 54
getGlobalPrivilegeACL() メソッド 55
getGlobalPrivileges() メソッド 55
getPermissions() メソッド 56
renameAccount() メソッド 56
updateGlobalPrivilegeACL() メソッド 57
WebCatalogService サービス 57
ErrorDetailsLevel 列挙型 59
copyItem() メソッド 59
createFolder() メソッド 60
createLink() メソッド 60
deleteItem() メソッド 61
getItemInfo() メソッド 61
getSubItems() メソッド 62
moveItem() メソッド 62
readObject() メソッド 63
readObjects() メソッド 63
removeFolder() メソッド 64
setItemAttributes() メソッド 65
setItemProperty() メソッド 65
takeOwnership() メソッド 66
updateCatalogItemACL() メソッド 66
writeObject() メソッド 67
writeObjects() メソッド 67
writeReport() メソッド 68
writeDashboard() メソッド 69
writeDashboardPrompt() メソッド 70
writeDashboardPage() メソッド 71

writeSavedFilter() メソッド　72
XMLViewService サービス　72
XMLQueryOutputFormat 列挙型　73
cancelQuery() メソッド　73
executeSQLQuery() メソッド　73
executeXMLQuery() メソッド　74
fetchNext() メソッド　75

第 5 章：　返されるレコードセットのフォーマット

第 6 章：　コードの例

索引

1 このリリースの新機能

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、以前 Siebel Systems 社が Siebel Business Analytics Platform として販売していたコンポーネントで構成されており、そこに大幅な機能拡張がいくつか実施されています。

『Oracle Business Intelligence Web Services ガイド』は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のドキュメント・セットの一部です。このマニュアルには、Oracle BI Web Services のサービスとメソッドの参照情報が記載されています。このマニュアルには、新しい記述と、以前は『Siebel Analytics Web Services Guide』というタイトルで公開されていた記述が含まれます。

Oracle BI Infrastructure をインストール、使用またはアップグレードする前に、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のリリース・ノートに目を通すことをお薦めします。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のリリース・ノートは次の場所にあります。

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の CD-ROM
- Oracle Technology Network（http://www.oracle.com/technology/documentation/bi_ee.html）（Oracle Technology Network の無料アカウントを登録するには、http://www.oracle.com/technology/about/index.html にアクセスしてください）

『Oracle Business Intelligence Web Services ガイド , リリース 10.1.3.2』に記述された新機能

表 1 に、リリース 10.1.3.2 をサポートするために、このリリースのドキュメントに記述された変更内容の一覧を示します。

表 1.　『Oracle Business Intelligence Web Services ガイド , リリース 10.1.3.2』に記述された製品の新機能

説明	項
新しい構造体です。	AccountsFilter 構造体（16 ページ）
新しい構造体です。	AuthResult 構造体（17 ページ）
メソッドを更新しました。	cancelQuery() メソッド（73 ページ）
新しい Oracle 製品名と用語で更新しています。	マニュアル全体
新しい構造体です。	ErrorInfo 構造体（18 ページ）
新しい構造体です。	ErrorInfo 構造体（18 ページ）
新しいメソッドです。	executeIBotNow() メソッド（40 ページ）

表 1.　『Oracle Business Intelligence Web Services ガイド , リリース 10.1.3.2』に記述された製品の新機能

説明	項
getResults() メソッドを削除しました。executeSQLQuery() メソッド（73 ページ）と executeXMLQuery() メソッド（74 ページ）に置き換わりました。	executeSQLQuery() メソッド（73 ページ）と executeXMLQuery() メソッド（74 ページ）
新しい構造体です。	ExportImportFlags 構造体（19 ページ）
新しいメソッドです。	getCatalogAccountsDatabase() メソッド（54 ページ）
新しいメソッドです。	getPermissions() メソッド（56 ページ）
新しいメソッドです。	GetSessionEnvironment() メソッド（53 ページ）
新しいサービスです。	iBotService サービス（40 ページ）
メソッドを更新しました。	_import() メソッド（46 ページ）
新しい項です。	Oracle BI Web Services ライセンスと権限（12 ページ）
新しい構造体です。	QueryResults 構造体（22 ページ）
新しいメソッドです。	readObjects() メソッド（63 ページ）
メソッドを更新しました。	removeFolder() メソッド（64 ページ）
新しいメソッドです。	renameAccount() メソッド（56 ページ）
purgeLog() メソッドを削除しました。ログの有効期限は、instanceconfig.xml ファイルの設定により制御するようになりました。	ReplicationService サービス（45 ページ）
新しいメソッドです。	setItemAttributes() メソッド（65 ページ）
新しい構造体です。	UpdateACLMode 列挙型（31 ページ）
updateFlag フィールドの定義を更新しました。	UpdateACLParams 構造体（30 ページ）
新しいメソッドです。	updateCatalogItemACL() メソッド（66 ページ）
新しい構造体です。	UpdateCatalogItemACLParams 構造体（31 ページ）
新しいメソッドです。	writeObjects() メソッド（67 ページ）
新しい構造体です。	XMLQueryExecutionOptions 構造体（32 ページ）
新しいサービスです。	XMLViewService サービス（72 ページ）

2 Oracle BI Web Services の概要

この章では、Oracle BI Web Services の概要について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- Simple Object Access Protocol とは（10 ページ）
- Oracle BI Web Services とは（10 ページ）
- Oracle BI Web Services における項目シグネチャの使用（10 ページ）
- Oracle BI Web Services インタフェースへのアクセス（11 ページ）
- Oracle BI Web Services ライセンスと権限（12 ページ）

Simple Object Access Protocol とは

Simple Object Access Protocol（SOAP）は、World Wide Web Consortium（W3C）勧告の XML プロトコルで、Web 上で情報を交換するために使用します。

Oracle BI Web Services とは

Oracle BI Web Services は、SOAP を実装するアプリケーション・プログラミング・インタフェース（API）です。Oracle BI Web Services により、次の 3 つの機能を実行できます。

- Oracle BI Presentation Services から結果を抽出し、外部アプリケーションに配信します。
- Oracle BI Presentation Catalog の管理機能を実行します。
- Oracle Business Intelligence アラート（iBot）を実行します。

Oracle BI Web Services により、J2EE や .NET などの外部アプリケーションで Oracle Business Intelligence を解析計算処理とデータ統合エンジンとして使用できます。これによって、外部アプリケーションにおいて Oracle BI Presentation Services との通信ができるようになる Presentation Services のセットが用意されます。Oracle BI Web Services を使用して、Oracle BI Presentation Services から結果を抽出し、外部アプリケーションや Web アプリケーション環境に配信できます。保存されたレポートを参照したり、レポートの条件を Oracle BI Web Services に送信することができます。

Oracle BI Web Services のサービスとメソッドのフォーマット定義は、WSDL（Web Services Definition Language）フォーマットで取得できます。サービスのプロキシ・クラスは、自動的に生成できます。

サービスの XML Schema Definition（XSD）ファイルは、SawServices.xsd ファイルです。これは、Oracle Business Intelligence プラットフォームのインストール・ディレクトリの ¥Web¥App¥Res¥Wsdl¥Schemas ディレクトリにあります。XSD ファイルはシステム内部で使用され、個別に使用することはできません。次の Oracle BI Web Services URL で WSDL ドキュメントにアクセスできます。

`http://<somehost>/analytics/saw.dll?WSDL`

Oracle BI Web Services は、Oracle JDeveloper、Apache Axis および Microsoft .NET Framework でサポートされます。

SOAP 勧告の詳細は、Microsoft Developer Network や W3C Web サイトなどを参照してください。

Oracle BI Web Services における項目シグネチャの使用

それぞれのオブジェクトには、独自のシグネチャがあります。シグネチャは、オブジェクトを書き込む際に使用します。オブジェクトを書き込む際は適切なシグネチャを使用する必要があります。様々なメソッドで使用されるシグネチャは、このマニュアルに記載されているメソッドの説明で解説されています。

次のサンプル・コードでは、シグネチャを設定するための汎用オブジェクトを記述しています。

```
If (signature == "queryitem1")
{
   ws.writeReport(o,name,true,true,session);
}
else if (signature == "dashboarditem1")
{
   ws.writeDashboard(o,name,true,true,session);
}
else if (signature == "dashboardpageitem1")
{
   ws.writeDashboardPage(o,name,true,true,session);
}
else if (signature == "globalfilteritem1")
{
   ws.writeDashboardPrompt(o,name,true,true,session);
}
else if (signature == "filteritem1")
{
   ws.writeSavedFilter(o,name,true,true,session);
}
else if (signature == "COXmlDocument1")
{
   ws.writeObject(o,name,true,true,session);
}
else
{
   ws.writeObject(o,name,true,true,session);
}
```

Oracle BI Web Services インタフェースへのアクセス

SOAP クライアント・ライブラリとツールが使用可能なプラットフォームで、Oracle BI Web Services インタフェースにアクセスできます。SOAP サービスにアクセスする手順は、各プログラミング環境により異なります。

Microsoft Visual Studio から Oracle BI Web Services にアクセスする例

次に、Microsoft Visual Studio から Oracle BI Web Services へのアクセスに必要な手順を示します。

Microsoft Visual Studio から Oracle BI Web Services にアクセスするには

1. Microsoft Visual Studio のプロジェクトを開きます。
2. 「Solution Explorer」でソリューション・ノードを開き、「References」を右クリックしてから「Add Web Reference」を選択します。

   「Add Web Reference」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 「URL」フィールドで Oracle BI Web Services WSDL ドキュメントにアクセスするための URL を入力します。

次に、Oracle BI Presentation Services WSDL ドキュメントにアクセスする URL の例を示します。

http://<*somehost*>/analytics/saw.dll?WSDL

4 「Go」をクリックします。

見つかったサービスとメソッドは、「Add Web Reference」ダイアログに表示されます。

5 「Add Reference」ボタンをクリックします。

「Add Web Reference」ダイアログ・ボックスが閉じ、追加された Web 参照を示すノードが「Solution Explorer」ペインに表示されます。

6 追加されたクラスとメソッドを表示するには、ノードを右クリックしてから次のオプションを選択します。

View in Object Browser

クラスとメソッドが「Object Browser」ウィンドウに表示されます。

7 プログラムでクラスの使用を開始します。

コードの例は、「コードの例」（79 ページ）を参照してください。

Oracle BI Web Services ライセンスと権限

Oracle BI Web Services は、Oracle Business Intelligence のライセンス・ユーザーが使用できます。インストーラでは、インストール・キーに基づいて analyticsweblicense.xml ファイルに適切なライセンス・エントリを生成します。Oracle BI Web Services メソッドの作成時に Not Licensed エラーが発生したら、インストール時に正しいキーが使用されていることをチェックします。

analyticsweblicense.xml ファイルのライセンス・エントリは、次のとおりです。

- kmsgLicenseSOAPAccess: このエントリにより、SOAP インタフェースが有効になります。
- kmsgLicenseOfficeIntegration: このエントリにより、Microsoft Excel との統合が有効になります。

「Access Soap」権限は、デフォルトですべてのユーザーに付与されます。この権限の付与をユーザーに対して明示的に拒否すると、Oracle BI では、認証を必要とする Oracle BI Web Services メソッド（logon や logonex など）において Access Denied 例外がスローされます。

3 Oracle BI Web Services の構造体の説明

この章では、Oracle BI Web Services で使用する構造体について説明します。

注意：このマニュアルでは JavaScript 類似構文を使用して構造体について説明します。正確な構文と実装は、ご使用のアプリケーション開発環境で使用する開発言語と SOAP コード生成ツールによって異なります。

この章の内容は次のとおりです。

- 構造体とサービス（14 ページ）
- AccessControlToken 構造体（15 ページ）
- Account 構造体（16 ページ）
- AccountsFilter 構造体（16 ページ）
- ACL 構造体（16 ページ）
- AuthResult 構造体（17 ページ）
- CatalogItemsFilter 構造体（17 ページ）
- CatalogObject 構造体（18 ページ）
- ErrorInfo 構造体（18 ページ）
- ExportImportFlags 構造体（19 ページ）
- GetSubItemsParams 構造体（19 ページ）
- ImportError 構造体（20 ページ）
- ItemInfo 構造体（21 ページ）
- NameValuePair 構造体（22 ページ）
- Privilege 構造体（22 ページ）
- QueryResults 構造体（22 ページ）
- ReportHTMLOptions 構造体（23 ページ）
- ReportParams 構造体（24 ページ）
- ReportRef 構造体（25 ページ）
- SAColumn 構造体（25 ページ）
- SASubjectArea 構造体（27 ページ）
- SATable 構造体（28 ページ）
- SAWLocale 構造体（28 ページ）
- SAWSessionParameters 構造体（29 ページ）
- StartPageParams 構造体（30 ページ）

- UpdateACLParams 構造体（30 ページ）
- UpdateCatalogItemACLParams 構造体（31 ページ）
- Variable 構造体（32 ページ）
- XMLQueryExecutionOptions 構造体（32 ページ）

構造体とサービス

表 2 に、使用するサービス別にまとめた構造体の一覧を示します。

表 2.　サービスと使用可能な構造体

サービス	構造体
すべてのサービス	「ErrorInfo 構造体」（18 ページ）
	「ReportParams 構造体」（24 ページ）
	「ReportRef 構造体」（25 ページ）
	「Variable 構造体」（32 ページ）
HtmlViewService	「ReportHTMLOptions 構造体」（23 ページ）
	「StartPageParams 構造体」（30 ページ）
MetadataService	「SAColumn 構造体」（25 ページ）
	「SASubjectArea 構造体」（27 ページ）
	「SATable 構造体」（28 ページ）
ReplicationService	「CatalogItemsFilter 構造体」（17 ページ）
	「ExportImportFlags 構造体」（19 ページ）
	「ImportError 構造体」（20 ページ）
SAWSessionService	「AuthResult 構造体」（17 ページ）
	「SAWLocale 構造体」（28 ページ）
	「SAWSessionParameters 構造体」（29 ページ）
SecurityService	「AccessControlToken 構造体」（15 ページ）
	「ACL 構造体」（16 ページ）
	「AccountsFilter 構造体」（16 ページ）
	「Privilege 構造体」（22 ページ）
	「UpdateACLParams 構造体」（30 ページ）
	「UpdateCatalogItemACLParams 構造体」（31 ページ）

表 2.　サービスと使用可能な構造体

サービス	構造体
WebCatalogService	「CatalogObject 構造体」（18 ページ）
	「ErrorInfo 構造体」（18 ページ）
	「GetSubItemsParams 構造体」（19 ページ）
	「ItemInfo 構造体」（21 ページ）
	「NameValuePair 構造体」（22 ページ）
	「NameValuePair 構造体」（22 ページ）
	「UpdateCatalogItemACLParams 構造体」（31 ページ）
XMLViewService	「QueryResults 構造体」（22 ページ）
	「ReportParams 構造体」（24 ページ）
	「ReportRef 構造体」（25 ページ）
	「XMLQueryExecutionOptions 構造体」（32 ページ）

AccessControlToken 構造体

この構造体を使用して、アクセス制御リストにおいて特定のアカウントに付与する権限を記述します。この構造体は、「SecurityService サービス」で使用します。表 3 に、この構造体のフィールドを示します。

表 3.　AccessControlToken 構造体のフィールド

フィールド	説明
Account account	Account 構造体への参照を指定します。
int permissionMask	次のフラグを組み合せて指定します。 1: 項目のコンテンツを読み取る権限 2: ディレクトリを横断してアクセスする権限 4: 項目のコンテンツを変更する権限 8: 項目を削除する権限 16: 他のアカウントに権限を割り当てる権限 32: 項目の所有権を取得する権限

Account 構造体

この構造体を使用して、ユーザー名またはグループ名を保持します。これは、その名前がユーザーかグループかを示すフラグを持ちます。この構造体は、「SecurityService サービス」で使用します。表 4 に、この構造体のフィールドを示します。

表 4.　Account 構造体のフィールド

フィールド	説明
String accountName	アカウント名またはグループ名を指定します。
int accountType	アカウントがユーザーかグループかを指定します（0: ユーザー、1: グループ）。

AccountsFilter 構造体

この構造体を使用して、キャッシュ内のアカウントをフィルタ処理する方法を指定します。この構造体は、「SecurityService サービス」（getCatalogAccountsDatabase メソッド）で使用します。表 5 に、この構造体のフィールドを示します。

表 5.　AccountsFilter 構造体のフィールド

フィールド	説明
boolean includeUsers	TRUE に設定された場合、キャッシュ内のアカウントはユーザー・アカウントでフィルタされます。
boolean includeGroups	TRUE に設定された場合、キャッシュ内のアカウントはユーザー・グループでフィルタされます。

注意：includeUsers と includeGroups を同じコマンドで使用できます。

ACL 構造体

この構造体を使用して、アクセス制御リスト（ACL）を保持します。この構造体は、「SecurityService サービス」で使用します。表 6 に、この構造体のフィールドを示します。

表 6.　ACL 構造体のフィールド

フィールド	説明
AccessControlToken[] accessControlTokens	権限の完全リストを指定します。
Account owner	リソースの所有者を指定します。

AuthResult 構造体

この構造体を使用して、認証時の認証詳細情報を指定します。この構造体は、「SAWSessionService サービス」（「logonex() メソッド」と「impersonateex() メソッド」）で使用します。表 7 に、この構造体のフィールドを示します。

表 7.　AuthResult 構造体のフィールド

フィールド	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。
boolean authCompleted	TRUE に設定された場合、認証は完了しています。FALSE に設定された場合、認証プロセスは進行中であることを示し、logonex または impersonateex のプロセスを再度コールする必要があります。

CatalogItemsFilter 構造体

この構造体を使用して、パスとタイムスタンプに基づいて、カタログ項目と変更内容をフィルタします。この構造体は、「ReplicationService サービス」で使用します。表 8 に、この構造体のフィールドを示します。

表 8.　CatalogItemsFilter 構造体のフィールド

フィールド	説明
String[] items	フィルタに含めるフォルダとその子フォルダのリストを指定します。この値が null の場合、カタログ内のすべてのノードを含めます。
Calendar from	フィルタの期間を指定します。この期間内のタイムスタンプを持つ項目と変更内容のみがフィルタ条件を満たします（from <= タイムスタンプ <= to）。この 2 つのフィールドは、どちらか片方または両方とも null に指定できます。その場合、null に指定されたフィールドの境界値が設定されていないものとみなされます。
Calendar to	

CatalogObject 構造体

この構造体を使用して、単一メソッドで特定の Presentation Catalog オブジェクトのすべての情報を取得または指定します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 9 に、この構造体のフィールドを示します。

表 9.　CatalogObject 構造体のフィールド

フィールド	説明
String catalogObject	オブジェクトの XML 表現を指定します。
ItemInfo itemInfo	オブジェクトに関する Presentation Catalog 情報を ItemInfo 共通構造体で指定します。 ItemInfo 構造体の詳細は、「ItemInfo 構造体」（21 ページ）を参照してください。
ErrorInfo errorInfo	readObjects メソッドの ErrorDetails 引数で指定するエラー情報のレベルを指定します（詳細は、「readObjects() メソッド」（63 ページ）を参照）。

ErrorInfo 構造体

この構造体を使用して、Presentation Catalog サービスのメソッドのコール時にエラー情報を取得します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 10 に、この構造体のフィールドを示します。

表 10.　ErrorInfo 構造体のフィールド

フィールド	説明
String code	表示するエラー・コードを指定します。
String context	エラーが発生したサービスとメソッドを指定します。
String details	エラーに関する詳細情報を指定します。
String message	エラーに関する判読可能な表現による説明を指定します。

ExportImportFlags 構造体

この構造体を使用して、export メソッド使用時にエクスポートする変更内容を指定します。この構造体は、「ReplicationService サービス」で使用します。表 11 に、この構造体のフィールドを示します。

注意：ExportImportFlags では、複数あるフィールドの中の 1 つのフィールドのみを指定する必要があります。

表 11. ExportImportFlags 構造体のフィールド

フィールド	説明
String processAll	レプリケーション・ログを参照せずに、ディレクトリ内のすべての項目を挿入するようにエクスポートすることを指定します。
String processAllChanges	最初にレプリケーション・ログを参照して変更内容を検出した後に、ローカル・コンピュータとリモート・コンピュータの特定のディレクトリにおいて変更されたフラグをエクスポートすることを指定します（processLocalChanges と processRemoteChanges の組合せ）。
String processLocalChanges	最初にレプリケーション・ログを参照して変更内容を検出した後に、ローカル・コンピュータの特定のディレクトリにおいて変更されたフラグをエクスポートすることを指定します。
String processRemoteChanges	最初にレプリケーション・ログを参照して変更内容を検出した後に、リモート・コンピュータの特定のディレクトリにおいて変更されたフラグをエクスポートすることを指定します。

GetSubItemsParams 構造体

この構造体を使用して、getSubItems メソッドで使用するオプション・パラメータを保持します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 12 に、この構造体のフィールドを示します。

表 12. GetSubItemsParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
NameValuePair	システム内部でのみ使用します。このフィールドは null にする必要があります。
boolean includeACL	TRUE に設定された場合、結果の ItemInfo 構造体には ACL 情報が含まれます。
int withPermission	結果の項目コレクションをアクセス・レベルでフィルタすることを指定します。結果に含まれる項目のみ、次の式は真（true）になります。 `(itemPermission & withPermissionMask) = (withPermission & withPermissionMask)` ここで、itemPermission は現在のカタログ項目の権限フラグの組合せです。
int withPermissionMask	

表 12. GetSubItemsParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
int withAttributes	結果の項目コレクションを属性フラグでフィルタすることを指定します。結果に含まれる項目のみ、次の式は真（true）になります。 `(itemAttributes & withAttributesMask) = (withAttributes & withAttributesMask)` ここで、itemAttributes は現在のカタログ項目の属性フラグの組合せです。
int withAttributesMask	

ImportError 構造体

この構造体を使用して、インポート中の失敗の原因を記述します。この構造体は、「ReplicationService サービス」で使用します。表 13 に、この構造体のフィールドを示します。

表 13. ImportError 構造体のフィールド

フィールド	説明
String item	変更された項目へのパスを指定します。たとえば、/users/jchan/reports/ と指定します。
String operation	システム内部でのみ使用します。
String file	
int line	
String catalogError	失敗の原因を説明するエラー文字列を指定します。

ItemInfo 構造体

この構造体を使用して、オブジェクトに関する Presentation Catalog 情報を保持します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 14 に、この構造体のフィールドを示します。

表 14. ItemInfo 構造体のフィールド

フィールド	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトへのパスを指定します。たとえば、/users/jchan/reports/ と指定します。
ItemInfoType type	型を示す文字列を指定します。有効な値は次のとおりです。 ■ Folder ■ Link ■ Missing ■ NoAccess ■ Object
String caption	Presentation Catalog 内のオブジェクトのローカライズ名を指定します。たとえば、フランス語では「My Folders」は Mes Dossiers と表示されます。
int attributes	次のフラグを組み合せて指定します。 1: 読取り専用 2: アーカイブ 4: 非表示 8: システム
Calendar lastModified	オブジェクトが最後に変更された日付と時刻を Calendar フォーマットで指定します。
Calendar created	オブジェクトが Presentation Catalog に作成（保存）された日付と時刻を Calendar フォーマットで指定します。
Calendar accessed	ユーザーがオブジェクトに最後にアクセスした日付と時刻を Calendar フォーマットで指定します。
String signature	Web Catalog オブジェクトのシグネチャを指定します。シグネチャの詳細は、「Oracle BI Web Services における項目シグネチャの使用」（10 ページ）を参照してください。
NameValuePair[] itemProperties	オブジェクト・プロパティの配列を指定します。
ACL acl	このカタログ項目のアクセス制御リストを指定します。

NameValuePair 構造体

この構造体を使用して、COLOR=RED などの名前付きプロパティを示します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 15 に、この構造体のフィールドを示します。

表 15. NameValuePair 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	プロパティ名を含む文字列（COLOR など）を指定します。
String value	値を含む文字列（RED など）を指定します。

Privilege 構造体

この構造体を使用して、グローバル権限を表します。Oracle Business Intelligence では、「Manage Privileges」画面を使用してこれらの権限を構成します。この構造体は、「SecurityService サービス」で使用します。表 16 に、この構造体のフィールドを示します。

表 16. Privilege 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	権限の名前を指定します。
String description	権限の説明を指定します。

QueryResults 構造体

この構造体を使用して、クエリー実行時におけるクエリーの詳細を指定します。この構造体は、「XMLViewService サービス」（executeXMLQuery メソッド）で使用します。表 17 にこの構造体のフィールドを示します。

表 17. QueryResults 構造体のフィールド

フィールド	説明
String rowset	文字列にエンコードされた行セット XML を指定します。
String queryID	一意のクエリー ID を指定します。これは fetchNext のコールで使用できます。
boolean finished	TRUE に設定された場合、返す行がないことを示します。FALSE に設定された場合、さらに行を返すために fetchNext コールが必要です。

ReportHTMLOptions 構造体

この構造体を使用して、結果を HTML ページで表示するためのオプションを定義します。この構造体は、「HtmlViewService サービス」で使用します。表 18 に、この構造体のフィールドを示します。

表 18. ReportHTMLOptions 構造体のフィールド

フィールド	説明
boolean enableDelayLoading	システム内部でのみ使用します。このフィールドは、常に 1 に設定されます。これは、Oracle BI Web Services で結果が即座に渡される必要はなく、結果を待っていることを示すメッセージが表示されることを意味します。
String ReportHTMLLinksMode	ドリルやリンクを、現在のブラウザ・ウィンドウと新しいブラウザ・ウィンドウのどちらで表示するかを指定します。有効な値の詳細は、「ReportHTMLLinksMode 列挙型」（23 ページ）を参照してください。

ReportHTMLLinksMode 列挙型

この列挙型で ReportHTMLOptions 構造体の ReportHTMLLinksMode フィールドの有効値のリストを指定します。表 19 に、この列挙型の値を示します。

表 19. ReportHTMLLinksMode 列挙型の値

値	説明
String InPlace	ドリルやリンクによって、現在のレポートのコンテンツのみが置換され、ページの残りの部分は変更されないことを指定します。
String NewPage	ドリルやリンクを新しいブラウザ・ウィンドウで表示することを指定します。
String SamePage	ドリルやリンクを現在のブラウザ・ウィンドウで表示することを指定します。

ReportParams 構造体

この構造体を使用して、レポートにある既存のフィルタと変数を置換します。この構造体は、Oracle BI Web Services のすべてのサービスに共通です。表 20 に、この構造体のフィールドを示します。

表 20. ReportParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
String[] filterExpressions	Oracle BI Web Services フィルタ式の配列を、Object[] filter_expression, filter_expression ... の形式で指定します。
Variable[] variables	メソッドの実行前に設定する変数値の配列を指定します。この構造体は、「executeXMLQuery() メソッド」、「cancelQuery() メソッド」および「generateReportSQL() メソッド」で使用します。
NameValuePair[] nameValues	null に設定する必要があります。このフィールドは、システム内部でのみ使用します。
TemplateInfo[] templateInfos	null に設定する必要があります。このフィールドは、システム内部でのみ使用します。

表 21 は、フィルタ式をレポートに適用する方法を示します。

表 21. フィルタ式を Oracle BI Web Services のレポートに適用する方法

手順	内部処理
1	レポートの XML 表現と各フィルタ式を取得します。
2	式要素ごとに、sqlExpression 型（型は xsi:type 属性の値で決定される）の子ノードを検索し、その内部テキストを参照します。
3	レポート XML で、前の手順で検索した内部テキストと一致する sqlExpression 型の子ノードを持つすべてのノードを検索します。
4	手順 3 で見つかったすべてのノードを手順 2 の式で置換します。

表 22 は、変数をレポートに適用する方法を示します。

表 22. 変数を Oracle BI Web Services のレポートに適用する方法

手順	内部処理
1	レポートの XML 表現を取得します。
2	変数ごとに、変数の型、レポートと等しい属性スコープおよび内部テキスト（変数名と一致したもの）を持つレポート XML のすべてのノードを検索します。
3	手順 2 で見つかった各ノードを新しい変数値で置換します。

ReportRef 構造体

この構造体を使用して、次のいずれかの方法でレポートを参照します。

- Web Catalog でのレポートの位置。
- レポートを定義する ReportDef オブジェクト。このフィールドは常に null に設定する必要があります。
- レポートを定義する XML。

注意：ReportRef では、複数あるフィールドの中の 1 つのフィールドのみを指定する必要があります。

ReportRef 構造体は、Oracle BI Web Services のすべてのサービスに共通です。表 23 に、この構造体のフィールドを示します。

表 23. ReportRef 構造体のフィールド

フィールド	説明
String reportPath	Presentation Catalog 内のレポートへのパスを示す文字列値を指定します。たとえば、/users/jchan/reports/ と指定します。
String reportXML	レポートを定義する XML を含む文字列値を指定します。

SAColumn 構造体

この構造体を使用して、サブジェクト領域の論理列を表します。この構造体は、「MetadataService サービス」で使用します。表 24 に、この構造体のフィールドを示します。

表 24. SAColumn 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	SQL 文で使用する列名を指定します。
String displayName	Oracle BI Answers で使用するローカライズ名を指定します。
String description	列名の説明を含む文字列を指定します。
boolean nullable	TRUE に設定された場合、その列には null を指定できます。
String dataType	列に格納されるデータの型を指定します。詳細は、「SADataType 値」（26 ページ）を参照してください。
boolean aggregateable	TRUE に設定された場合、その列は集計できます。
String aggrRule	列に集計データが含まれる場合、使用される集計の型をこの値で指定します。詳細は、「AggregationRule 値」（26 ページ）を参照してください。

SADataType 値

SADataType は、列に格納されるデータの型を示します。次の一覧は、使用可能なデータ型を示します。

- BigInt
- Binary
- Bit
- Char
- Coordinate
- Date
- Decimal
- Double
- Float
- Integer
- Invalid
- LongVarBinary
- LongVarChar
- Numeric
- Real
- SmallInt
- Time
- TimeStamp
- TinyInt
- Unknown
- VarBinary
- VarChar

AggregationRule 値

SADataType により、列のデフォルト集計ルールを指定します。集計関数の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』を参照してください。次の一覧は、使用可能な集計関数を示します。

- Avg
- BottomN
- Complex
- Count
- CountDistinct

- CountStar
- DimensionAggr
- First
- Last
- Max
- Min
- None
- Percentile
- Rank
- ServerDefault
- SubTotal
- Sum
- TopN

SASubjectArea 構造体

この構造体を使用して、サブジェクト領域の属性を表します。この構造体は、「MetadataService サービス」で使用します。表 25 に、この構造体のフィールドを示します。

表 25. SASubjectArea 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	SQL 文で使用するテーブル名を指定します。
String displayName	Oracle BI Answers で使用するローカライズ名を指定します。
String description	サブジェクト領域の説明を指定します。
SATable[] tables	サブジェクト領域のテーブルのコレクションを示します。SATable 構造体の詳細は、「SATable 構造体」（28 ページ）を参照してください。

SATable 構造体

この構造体を使用して、サブジェクト領域の論理テーブルを表します。この構造体は、「MetadataService サービス」で使用します。表 26 に、この構造体のフィールドを示します。

表 26. SATable 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	SQL 文で使用するテーブル名を指定します。
String displayName	Oracle BI Answers で使用するローカライズ名を指定します。
String description	テーブル名の説明を指定します。
SAColumn[] columns	テーブルの列の配列を示します。SAColumn 構造体の詳細は、「SAColumn 構造体」（25 ページ）を参照してください。

SAWLocale 構造体

この構造体を使用して、現在のセッションのロケールを定義します。この構造体は、「SAWSessionService サービス」で使用します。表 27 に、この構造体のフィールドを示します。

表 27. SAWLocale 構造体のフィールド

フィールド	説明
String language	言語コードを指定します。言語コードの値は、Java の java.util.Locale クラス（ISO-639、ISO-3166）で使用される値と一致する必要があります。
String country	国コードを指定します。国コードの値は、Java の java.util.Locale クラス（ISO-639、ISO-3166）で使用される値と一致する必要があります。

SAWSessionParameters 構造体

この構造体を使用して、現在のセッションのオプション・パラメータを定義します。この構造体は、「SAWSessionService サービス」で使用します。表 28 に、この構造体のフィールドを示します。

表 28. SAWSessionParameters 構造体のフィールド

フィールド	説明
SAWLocale locale	使用するロケールを SAWLocale 構造体で指定します。SAWLocale 構造体の詳細は、「SAWLocale 構造体」（28 ページ）を参照してください。
String userAgent	HTMLView サービスを現在のセッションで使用するかどうかを指定します。これにより、Oracle BI Presentation Services の HTML コンテンツが表示されるブラウザの userAgent 文字列を指定します。Oracle BI Presentation Services では、この情報を使用してブラウザ固有の HTML を生成します。
String features	システム内部でのみ使用します。null にする必要があります。
boolean asyncLogon	TRUE に設定された場合、非同期ログインは有効になります。FALSE に設定された場合（デフォルト）、非同期ログインは無効になります。
String sessionID	一意のセッション ID を指定します。このフィールドは、「logonex() メソッド」と impersonateex() メソッドで使用します。

SessionEnvironment 構造体

この構造体を使用して、現在のセッションの環境情報を返します。この構造体は、「SAWSessionService サービス」で使用します。表 29 に、この構造体のフィールドを示します。

表 29. SessionEnvironment 構造体のフィールド

フィールド	説明
String userName	現在のユーザーの名前を指定します。
ItemInfo homeDirectory	Presentation Catalog におけるユーザーのホーム・ディレクトリへのフルパスを指定します。たとえば、/users/<*user login ID*> と指定します。
ItemInfo[] SharedDirectories	現在のユーザーが少なくとも読取りアクセス権限を持つ共有ディレクトリへのフルパスを指定します。 **注意：**デフォルトでは、管理者のみが /shared ディレクトリの直接の子ディレクトリをリストすることを許可されています。ユーザーがその共有領域にナビゲート可能になる唯一の方法は、SessionEnvironment オブジェクトを取得することです。

StartPageParams 構造体

この構造体を使用して、startPage メソッド・コールのオプションを定義します。この構造体は、「HtmlViewService サービス」で使用します。表 30 に、この構造体のフィールドを示します。

表 30. StartPageParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
String idsPrefix	HTML ページで名前の競合を防止するために、すべての HTML 要素の ID と名前に使用する接頭辞を指定します。
boolean dontUseHttpCookies	TRUE に設定された場合、Oracle BI Presentation Services では Cookie に依存して sessionID を渡すことはできません。そのかわりに、sessionID はコールバック URL のパラメータとして含まれます。

UpdateACLParams 構造体

この構造体を使用して、updateACL メソッド・コールのオプションを設定します。この構造体は、「SecurityService サービス」で使用します。表 31 に、この構造体のフィールドを示します。

「UpdateACLMode 列挙型」（31 ページ）も参照してください。

表 31. UpdateACLParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
boolean allowUnknownAccounts	このフィールドが TRUE（1）に設定されていると、updateACL の新しいアクセス制御リスト（ACL）に Oracle BI Web Services で不明なアカウントが含まれている場合に、Oracle BI Web Services では新しいアカウント・レコードが作成されます。ただし、使用するには、指定されているアカウントは Oracle BI Server においても存在している必要があります。
UpdateACLMode int updateFlag	ACL の更新方法を次のように指定します。 0: 既存の ACL を新しい ACL で置換します。 1: 新しい ACL と既存の ACL とをマージします。 2: 権限を取り消します。新しい ACL には、取消し対象となる権限とアカウントのリストを指定します。

UpdateACLMode 列挙型

この列挙型により UpdateACLParams 構造体における更新フラグの有効値のリストを指定します。表 32 に、この列挙型の値を示します。

表 32. UpdateACLMode 列挙型の値

値	説明
String ReplaceACL	更新する ACL 値を指定します。
String ReplaceForSpecifiedAccounts	ACL において更新するアカウントのリストを指定します。
String DeleteAccountsFromACL	ACL から削除するアカウントのリストを指定します。

UpdateCatalogItemACLParams 構造体

この構造体を使用して、updateCatalogItemACL() メソッド（66 ページ）の追加パラメータを指定します。この構造体は、「WebCatalogService サービス」で使用します。表 33 に、この構造体のフィールドを示します。

表 33. UpdateCatalogItemACLParams 構造体のフィールド

フィールド	説明
boolean allowUnknownAccounts	このフィールドが TRUE（1）に設定されていると、updateACL の新しいアクセス制御リスト（ACL）に Oracle BI Web Services で不明なアカウントが含まれている場合に、Oracle BI Web Services では新しいアカウント・レコードが作成されます。ただし、使用するには、指定されているアカウントは Oracle BI Server においても存在している必要があります。
UpdateACLMode updateFlag	ACL の更新方法を次のように指定します。 0: 既存の ACL を新しい ACL で置換します。 1: 新しい ACL と既存の ACL とをマージします。 2: 権限を取り消します。新しい ACL には、取消し対象となる権限とアカウントのリストを指定します。
boolean recursive	TRUE に設定された場合、メソッドはそのパスで特定されるカタログ項目とすべての子に適用されます。FALSE に設定された場合、メソッドはそのカタログ項目にのみ適用されます。

Variable 構造体

この構造体を使用して、レポートの変数を参照して別の変数に置換します。この構造体は、Oracle BI Web Services のすべてのサービスに共通です。表 34 に、この構造体のフィールドを示します。

表 34. Variable 構造体のフィールド

フィールド	説明
String name	置換する変数の名前を含む文字列を指定します。
Object value	変数の値を指定します。

XMLQueryExecutionOptions 構造体

この構造体を使用して、クエリー時のオプション・パラメータを指定します。この構造体は、「XMLViewService サービス」（executeXMLQuery メソッド）で使用します。表 35 に、この構造体のフィールドを示します。

表 35. XMLQueryExecutionOptions 構造体のフィールド

フィールド	説明
boolean async	TRUE に設定された場合、非同期クエリーの実行は有効になります。FALSE に設定された場合、非同期クエリーの実行は無効になります。
int maxRowsPerPage	executeXMLQuery メソッドまたは fetchNext メソッドで返される行の最大数を指定します。
boolean refresh	TRUE に設定された場合、サーバーはクエリーを再送信してデータをリフレッシュします。FALSE に設定された場合、Oracle BI Server はキャッシュ内のデータを使用します。
boolean presentationInfo	TRUE に設定された場合、ローカライズされたプレゼンテーション情報をレコードセット XML のメタデータ・セクションに保存します。 プレゼンテーション情報は、次の項目で構成されます。 ■ 列見出し情報（columnHeading フィールドに格納される） ■ テーブル見出し情報（tableHeading フィールドに格納される）
String type	クエリー ID を指定します。これは、ログでエラーの診断に使用できます。

4 Oracle BI Web Services のサービスの説明

この章では、Oracle BI Web Services のサービスとメソッドについて説明します。

注意：このマニュアルでは JavaScript 類似構文を使用して構造体について説明します。正確な構文と実装は、ご使用のアプリケーション開発環境で使用する開発言語と SOAP コード生成ツールによって異なります。

この章の内容は次のとおりです。

- HtmlViewService サービス（34 ページ）
- iBotService サービス（40 ページ）
- MetadataService サービス（41 ページ）
- ReplicationService サービス（45 ページ）
- ReportEditingService サービス（47 ページ）
- SAWSessionService サービス（49 ページ）
- SecurityService サービス（53 ページ）
- WebCatalogService サービス（57 ページ）
- XMLViewService サービス（72 ページ）

注意：どの構造体でどのサービスを使用するかの詳細は、「構造体とサービス」（14 ページ）を参照してください。

HtmlViewService サービス

このサービスを使用して、Oracle BI HTML の結果をサード・パーティの動的 Web ページ（Active Server Pages（ASP）や JavaServer Pages（JSP）など）とポータル・フレームワークに埋め込みます。埋込みプロセスにより、Oracle BI Web Services のコンテンツとサード・パーティの Web ページのコンテンツがマージされます。表 36 にサポートされるメソッドを示します。

表 36. HtmlViewService のメソッド

メソッド名	説明
addReportToPage() メソッド（35 ページ）	結果を HTML ページに追加します。
endPage() メソッド（36 ページ）	サーバー・ページ・オブジェクトとそれに関するすべてのデータを廃棄します。
getCommonBodyHTML() メソッド（37 ページ）	<BODY> セクションに含める HTML を取得します。
getHeadersHTML() メソッド（37 ページ）	<HEAD> セクションに含める HTML を取得します。
getHTMLForReport() メソッド（38 ページ）	特定の結果セットを表示する HTML を取得します。
setBridge() メソッド（38 ページ）	通信を受信するブリッジ URL を指定します。Oracle BI Web Services サーバーとユーザーの Presentation Services が別のマシンにある場合やアプリケーション開発環境で結果を変更する場合に役立つ場合があります。
startPage() メソッド（39 ページ）	新しいページ・オブジェクトを作成して、その ID を返します。

HTMLViewService サービスのメソッドにより、サード・パーティの Web ページに挿入可能な HTML コードのフラグメントを抽出します。表 37 では、HTML コードの抜粋および適切なページ位置について説明します。

表 37. HTMLViewService サービスの HTML コード・フラグメントとページ位置

HTML コード・フラグメント	適切なページ位置
ヘッダー	HTML ページの <HEAD> セクションに挿入する必要があります。コードには、共通の JavaScript ファイルとスタイルシートへのリンクが含まれます。
レポート・オブジェクト	<BODY> セクションの任意の場所に挿入できます。
共通ボディ	<BODY> タグ内のすべてのレポート・リンクの後に挿入する必要があります。コードには、ドリルダウン・リンクの実装に使用する非表示 HTML 要素が含まれます。

返されるレポート・オブジェクトごとに、HTML コード・フラグメントには、ブラウザが Web ページをロードするときに自動的に追跡するコールバック・リンクが含まれます。コード・フラグメントには、レポートの完全なユーザー・インタフェース定義は含まれません。Oracle BI Web Services によるレポートの作成中に、サード・パーティの Web ページに埋め込まれた Oracle BI Web Services "Searching..." イメージがインタフェースにおいて表示されます。

円滑にレポートを遷移させるために、Oracle BI Web Services ではサード・パーティの Web ページに追加された Oracle BI レポートが追跡管理されます。この追跡管理は、サード・パーティの Web ページの構築中に内部論理ページ・オブジェクトの情報を維持することにより実現します。HtmlViewService サービスのメソッドでは、内部論理ページをその ID で明示的に参照します。

HtmlViewService ブリッジとコールバック URL について

アクティブなドリルダウン・リンクを含むレポートを埋め込むために、HtmlViewService サービスによって、埋め込むレポートから Oracle BI Web Services サーバーへのコールバック・リクエストを Web ブラウザで発行できます。リクエストを Oracle BI Web Services サーバーに直接ルーティングすることもできますが、多くの場合は元々サード・パーティのページを処理していた Presentation Services を介してリクエストをルーティングすることをお薦めします。また、Oracle BI Web Services とサード・パーティ Web サーバーが同じ Domain Name Service（DNS）ドメインに属さない場合、異なるドメイン間においてスクリプト処理を行うとブラウザのセキュリティ制限に関する JavaScript エラーがユーザーにおいて発生する場合があります。

これらの問題を回避するには、setBridge() メソッドを使用してコールバック URL がサード・パーティ Web サーバーを指すように変更します。リクエストを Oracle BI Web Services に再ルーティングするためにサード・パーティ Web サーバーにより実行される Web コンポーネントは用意されないので注意してください。この機能は、サード・パーティ・アプリケーションで実行する必要があります。setBridge() メソッドの詳細は、「setBridge() メソッド」（38 ページ）を参照してください。

addReportToPage() メソッド

このメソッドを使用して、結果を HTML ページに追加します。

シグネチャ

void addReportToPage(String pageID, String reportID, ReportRef report, String reportViewName, ReportParams reportParams, ReportHTMLOptions options, String sessionID);

引数	説明
String pageID	startPage() メソッドで返されたページ ID 文字列を指定します。 startPage() メソッドの詳細は、「startPage() メソッド」（39 ページ）を参照してください。

引数	説明
String reportID	ページに追加する結果を含むレポートを識別する文字列を指定します。これは、以降実行するメソッド・コールでこのレポートの参照に使用する必要があります。たとえば、Oracle BI Web Services サーバーで生成される対応ユーザー・インタフェース要素では、同じ ID を参照します。
ReportRef report	レポート定義を ReportRef 構造体で指定します。 詳細は、「ReportRef 構造体」（25 ページ）を参照してください。
String reportViewName	表示するビューを指定します。このパラメータが null の場合、レポートのデフォルト・ビューが使用されます。ビューの名前は、レポート XML 定義でビューの特定に使用されるものと一致する必要があります。
ReportParams reportParams	オプションです。実行前にレポートに適用するフィルタまたは変数を、ReportParams 共通構造体で指定します。 詳細は、「Oracle BI Web Services のサービスの説明」（33 ページ）を参照してください。
ReportHTMLOptions options	オプションです。実行後にレポートに適用する表示オプションを ReportHTMLOptions 構造体で指定します。詳細は、「QueryResults 構造体」（22 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

endPage() メソッド

このメソッドを使用して、Oracle BI Web Services サーバー・ページ・オブジェクトとそれに関するすべてのデータを破棄します。

シグネチャ

void endpage(String pageID, String sessionID);

引数	説明
String pageID	ページ・オブジェクトの ID を指定します。この ID は startPage() メソッドで返されます（詳細は、「startPage() メソッド」（39 ページ）を参照）。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

getCommonBodyHTML() メソッド

このメソッドを使用して、<BODY> セクションに含める HTML を取得します。

シグネチャ

String getCommonBodyHTML(String pageID, String sessionID);

引数	説明
String pageID	ページ・オブジェクトの ID を指定します。この ID は startPage() メソッドで返されます（詳細は、「startPage() メソッド」（39 ページ）を参照）。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

<BODY> セクションに含める HTML を含む文字列を返します。

getHeadersHTML() メソッド

このメソッドを使用して、<HEAD> セクションに含める HTML を取得します。

シグネチャ

String getHeadersHTML(String pageID, String sessionID);

引数	説明
String pageID	ページ・オブジェクトの ID を指定します。この ID は startPage() メソッドで返されます（詳細は、「startPage() メソッド」（39 ページ）を参照）。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

<HEAD> セクションに含める HTML を含む文字列を返します。

getHTMLForReport() メソッド

このメソッドを使用して、特定のレポートの結果を表示する HTML の抜粋を取得します。このメソッドをコールする前に、addReportToPage メソッドを使用して、結果を HTML ページに追加します。

シグネチャ

String getHTMLForReport(String pageID, String pageReportID, String sessionID);

引数	説明
String pageID	ページ・オブジェクトの ID を指定します。この ID は startPage() メソッドで返されます（詳細は、「startPage() メソッド」（39 ページ）を参照）。
String pageReportID	addReportToPage() メソッドで返されたレポート ID を指定します。 addReportToPage メソッドの詳細は、「addReportToPage() メソッド」（35 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

指定されたレポートを表示する HTML の抜粋を含む文字列を返します。

setBridge() メソッド

このメソッドを使用して、通信を受信するブリッジ URL を指定します。Oracle BI Web Services サーバーとユーザーの Web サーバーが別のマシンにある場合やアプリケーション開発環境で結果を変更する場合に、ブリッジ URL を指定すると役立つ場合があります。

setBridge() メソッドをコールすると、クライアント・ブラウザから Oracle BI Web Services サーバーへのすべてのリクエストは、ブリッジ URL に送信され、そこから Oracle BI Web Services サーバーに転送されます。

シグネチャ

void setBridge(String bridgeURL, String sessionID);

引数	説明
String bridgeURL	ブリッジ URL を指定します。たとえば、http://myserver/myapplication/sawbridge と指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

使用方法

クライアント・ブラウザでは、ブリッジ URL に、Java サーブレット、Active Server Pages（ASP）ページ、Common Gateway Interface（CGI）、Internet Server Application Programming Interface（ISAPI）または同等のアプリケーションの形式でハンドラを用意していることを確認してください。

また、次の処理も実行する必要があります。

- リクエスト文字列のRedirectURL引数にあるリクエスト済Oracle BI Web Servicesリソースのパスをデコードします。RedirectURL 引数の詳細は、「コールバック URL を置換する方法」（39 ページ）を参照してください。
- その他すべてのリクエスト引数は、すべてのヘッダーとリクエスト・ボディとともに、ブリッジ URL に転送します。
- レスポンスを Oracle BI Web Services サーバーからレスポンス・ストリームにコピーします。

コールバック URL を置換する方法

新しいコールバック URL はブリッジ URL に基づき、RedirectURL 引数が追加されたものです。RedirectURL 引数の値は、URL の元の値（標準 URL エンコーディング・ルールを使用してエンコードされた値）である必要があります。

通常 Oracle BI Web Services では、内部的にコールバック・リンクの相対 URL が使用されます。たとえば、元のコールバック・リンクが saw.dll?Go で、ブリッジ URL が http://myserver/myapplication/sawbridge の場合、新しいコールバック URL は、http://myserver/myapplication/sawbridge?RedirectURL=saw.dll%3fGo となります。

startPage() メソッド

このメソッドを使用して、新しいページ・オブジェクトを作成し、その ID を返します。

シグネチャ

String startPage(StartPageParams options, String sessionID);

引数	説明
StartPageParams options	ページの開始時に使用するオプションを StartPageParams 構造体で指定します。StartPageParams 構造体の詳細は、「StartPageParams 構造体」（30 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

Oracle BI Presentation Services ページ ID を含む文字列を返します。

iBotService サービス

このサービスを使用して、Oracle BI アラート（iBot）をプログラム的に実行します。iBot を実行する前に、iBot を Oracle BI Delivers において作成してから Presentation Catalog に格納する必要があります。表 38 にサポートされるメソッドを示します。

表 38. iBotService のメソッド

メソッド名	説明
executeIBotNow() メソッド（40 ページ）	Presentation Catalog に格納されている iBot を実行します。

executeIBotNow() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog に格納されている iBot を実行します。

シグネチャ

executeIBotNow (String path, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog にある iBot のフルパスと名前を指定します。たとえば、/users/jchan/_ibots/BrandDollars と指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon() メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

MetadataService サービス

このサービスを使用して、Oracle BI Web Services スキーマ・オブジェクト（列、テーブル、サブジェクト領域など）の説明を取得します。表 39 にサポートされるメソッドを示します。

表 39. MetadataService のメソッド

メソッド名	説明
describeColumn() メソッド（41 ページ）	指定されたサブジェクト領域とテーブルにおいて指定列の列情報を取得します。
describeSubjectArea() メソッド（42 ページ）	指定されたサブジェクト領域のサブジェクト領域情報を取得します。
describeTable() メソッド（43 ページ）	指定されたサブジェクト領域において指定テーブルのテーブル情報を取得します。
getSubjectAreas() メソッド（44 ページ）	使用可能なサブジェクト領域のリストを取得します。

describeColumn() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたサブジェクト領域とテーブルにおいて指定列の列情報を取得します。

シグネチャ

SAColumn describeColumn (String subjectAreaName, String tableName, String columnName, String sessionID);

引数	説明
String subjectAreaName	取得処理においてクエリーを行うサブジェクト領域を指定します。
String tableName	取得処理においてクエリーを行うテーブルを指定します。

引数	説明
String columnName	取得処理においてクエリーを行う列の名前を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

SAColumn オブジェクトを返します。SAColumn 構造体の詳細は、「SAColumn 構造体」（25 ページ）を参照してください。

describeSubjectArea() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたサブジェクト領域に関するサブジェクト領域情報を取得します。

シグネチャ

SASubjectArea describeSubjectArea (String subjectAreaName, SASubjectAreaDetails detailsLevel, String sessionID);

引数	説明
String subjectAreaName	取得処理においてクエリーを行うサブジェクト領域を指定します。
SASubjectAreaDetails detailsLevel	サブジェクト領域に関して取得する情報を指定します。SASubjectAreaDetails 構造体の詳細は、「SASubjectAreaDetails 値」（42 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

SASubjectAreaDetails 値

このメソッドを使用して、サブジェクト領域に関して取得する情報を指定します。表 40 に、使用可能な値を示します。

表 40. SASubjectAreaDetails 値

値	説明
IncludeTables	各テーブルに関する最小限の情報を含むテーブル・リストが含まれます。

表 40. SASubjectAreaDetails 値

値	説明
IncludeTablesAndColumns	完全なテーブルと列の情報が含まれます。
Minimum	テーブルと列の情報が含まれません。

戻り値

SASubjectArea オブジェクトを返します（詳細は、「SASubjectArea 構造体」（27 ページ）を参照）。

使用方法

detailsLevel パラメータの値により、返すオブジェクトには表 41 に示される情報が含まれます。

表 41. detailsLevel 値

detailsLevel 値	説明
IncludeTables	このサブジェクト領域のテーブルのコレクションが含まれていて null ではないテーブル・フィールドを指定します。各テーブル・オブジェクトは、null に設定された列フィールドを持ちます。
InludeTablesAndColumns	このサブジェクト領域のテーブルのコレクションが含まれていて null ではないテーブル・フィールドを指定します。テーブル・オブジェクトごとに、列フィールドには列の対応するコレクションが含まれます。
Minimum	使用できるテーブル・リストがないことを指定します。結果のサブジェクト領域オブジェクトのテーブル・フィールドは、null です。

describeTable() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたサブジェクト領域において指定テーブルのテーブル情報を取得します。

シグネチャ

SATable describeTable (String subjectAreaName, String tableName, SATableDetails detailsLevel, String sessionID);

引数	説明
String subjectAreaName	取得処理においてクエリーを行うサブジェクト領域を指定します。
String tableName	取得処理においてクエリーを行うテーブルを指定します。

引数	説明
SATableDetails detailsLevel	テーブルに関して取得する情報を指定します。SATableDetails 構造体の詳細は、「SATablesDetails 値」（44 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

SATablesDetails 値

テーブルに関して取得する情報の指定に使用します。表 42 に、使用可能な値を示します。

表 42. SATableDetails 値

値	説明
IncludeColumns	SATable オブジェクトの列フィールドにデータを読み込みます。
Minimum	列情報は含まれません。SATable オブジェクトの列フィールドは null に設定されます。

戻り値

SATable オブジェクトを返します。SATable 構造体の詳細は、「SATable 構造体」（28 ページ）を参照してください。

getSubjectAreas() メソッド

このメソッドを使用して、使用可能なサブジェクト領域のリストを取得します。

シグネチャ

SASubjectArea[] getSubjectAreas(String sessionID);

引数	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

SASubjectArea オブジェクトの配列を返します。SASubjectArea 構造体の詳細は、「SAWLocale 構造体」（28 ページ）を参照してください。

使用方法

このメソッドで返される SASubjectArea オブジェクトには、使用可能なテーブル情報が含まれません。テーブル・フィールドは、null です。すべてのレベルでクエリーを行う手法では、getSubjectAreas() を使用してサブジェクト領域のリストを取得した後に、describeSubjectArea() を使用してテーブルのリストを取得します。そして、describeTable() を使用して指定テーブルにある列のリストを取得してから、最後に describeColumn() を使用して指定列の情報を取得します。

ReplicationService サービス

このサービスを使用して、カタログ・レプリケーション・メソッドを提供します。表 43 にサポートされるメソッドを示します。

表 43. ReplicationService のメソッド

メソッド名	説明
export() メソッド（45 ページ）	指定されたログ・ファイルにカタログの変更内容をエクスポートします。
_import() メソッド（46 ページ）	ログ・ファイルから変更内容をインポートします。
markForReplication() メソッド（47 ページ）	指定されたフォルダとその子フォルダにおいてレプリケーション可能フラグを変更します。

export() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたログ・ファイルにカタログの変更内容をエクスポートします。

シグネチャ

void export (String filename, CatalogItemsFilter filter, ExportImportFlags flag, String sessionID);

引数	説明
String filename	ログ・ファイルの名前を指定します。
CatalogItemsFilter filter	エクスポートする変更内容のサブセットを指定します。filter.items フィールドを null にすることはできません。
ExportImportFlags flag	エクスポートする変更内容（ローカルやリモートの変更内容など）を指定します（詳細は、「ExportImportFlags 構造体」（19 ページ）を参照）。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

_import() メソッド

このメソッドを使用して、ログ・ファイルから変更内容をインポートします。

注意： Java 環境では、インポート・メソッドを _import() と指定する必要があります。これにより、予約語の import との競合が回避されます。

シグネチャ

ImportError[] import (String importFilePath, ExportImportFlags flag, Calendar lastPurgedLog, boolean updateReplicationLog, boolean returnErrors, CatalogItemsFilter filter, String sessionID);

引数	説明
String importFilePath	インポートするログ・ファイルのパスを指定します。
ExportImportFlags flag	エクスポートする変更内容（ローカルやリモートの変更内容など）を指定します（詳細は、「ExportImportFlags 構造体」（19 ページ）を参照）。
Calendar lastPurgedLog	ログが最後にクリーンアップされた日付と時刻を指定します。エクスポート・ファイルの変更がこの日時以降に行われた場合は、インポートではローカル・ログを使用して再生するかどうか判断します。それ以外の場合は、最終アクセス時刻を使用します。
boolean updateReplicationLog	TRUE に設定された場合、レプリケーション・ログは更新されます。FALSE に設定された場合、レプリケーション・ログは更新されません。
boolean returnErrors	TRUE に設定された場合、メソッドは ImportError オブジェクトの配列を返します。これは、フィルタ条件を満たすインポート・ファイルに記録された変更内容が再生されなかった場合に関する記述です。
CatalogItemsFilter filter	特定の期間内で行われた変更と、指定されたフォルダのカタログ項目に対して行われた変更のフィルタを指定します。null を指定できます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

発生したエラーのリストを含む ImportError 構造体を返します。詳細は、「ImportError 構造体」（20 ページ）を参照してください。

markForReplication() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたフォルダとその子フォルダにおいてレプリケーション可能フラグを変更します。

シグネチャ

void markForReplication (String item, boolean replicate, String sessionID);

引数	説明
String item	フォルダのパスを指定します。
boolean replicate	TRUE に設定された場合、フォルダをレプリケーション可能にマークします。FALSE に設定された場合、レプリケーション可能フラグを削除します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

ReportEditingService サービス

このサービスを使用して、引数と Oracle BI Web Services データをマージし、結果を作成して返します。表 44 にサポートされるメソッドを示します。

表 44. ReportEditingService のメソッド

メソッド名	説明
applyReportParams() メソッド（47 ページ）	レポート引数をレポート・オブジェクトに適用し、結果を返します。
generateReportSQL() メソッド（48 ページ）	特定のレポートに対する SQL クエリーを取得します。

applyReportParams() メソッド

このメソッドを使用して、レポート引数をレポートに適用し、結果を返します。

シグネチャ

Object applyReportParams(ReportRef object, ReportParams reportParams, boolean encodeInString, String sessionID);

引数	説明
ReportRef object	レポート定義へのパスを ReportRef 共通構造体で指定します。ReportRef 構造体の詳細は、「ReportRef 構造体」（25 ページ）を参照してください。
ReportParams reportParams	オプションです。実行前にレポートに適用するフィルタまたは変数を、ReportParams 共通構造体で指定します。詳細は、「Oracle BI Web Services のサービスの説明」（33 ページ）を参照してください。
boolean encodeInString	TRUE に設定された場合、返されるレポート・オブジェクトは文字列としてエンコードされます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

指定されたレポート・オブジェクトにレポート引数を適用した結果を返します。encodeInString を TRUE に設定すると、結果は文字列としてエンコードされます。

generateReportSQL() メソッド

このメソッドを使用して、特定のレポートに対する論理 SQL クエリーを取得します。

シグネチャ

String generateReportsSQL(ReportRef reportRef, ReportParams reportParams, String sessionID);

引数	説明
ReportRef reportRef	レポート定義へのパスを ReportRef 共通構造体で指定します。詳細は、「ReportRef 構造体」（25 ページ）を参照してください。
ReportParams reportParams	オプションです。実行前にレポートに適用するフィルタまたは変数へのパスを、ReportParams 共通構造体で指定します。詳細は、「Oracle BI Web Services のサービスの説明」（33 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

指定されたレポートに対する SQL クエリーを含む文字列です。

SAWSessionService サービス

このサービスを使用して、認証メソッド（logon や logoff など）やその他のセッション関連メソッドを提供します。表 45 にサポートされるメソッドを示します。

表 45. SAWSessionService のメソッド

メソッド名	説明
getCurUser() メソッド（49 ページ）	セッションの現在のユーザー ID を取得します。
GetSessionEnvironment() メソッド（53 ページ）	現在のセッションの環境オブジェクトを取得します。
impersonate() メソッド（50 ページ）	ログオンしてからユーザーの偽装を行います。
impersonateex() メソッド（50 ページ）	ログオンしてからユーザーの偽装を行います。impersonate メソッドと似ていますが、impersonateex ではオプションのセッション・パラメータを指定できます。
keepAlive() メソッド（51 ページ）	Oracle BI Web Services で、特定のセッションがアクティブでない状態でも終了させないようにします。
logoff() メソッド（51 ページ）	ユーザーを Oracle BI Web Services からログオフさせます。
logon() メソッド（52 ページ）	ユーザーを認証します。
logonex() メソッド（52 ページ）	ユーザーを認証します。logon メソッドと似ていますが、logonex ではオプションのセッション・パラメータを指定できます。

getCurUser() メソッド

このメソッドを使用して、セッションの現在のユーザー名を取得します。

シグネチャ

String getCurUser(String sessionID);

引数	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

セッションの現在のユーザー名を示す文字列を返します。

impersonate() メソッド

このメソッドを使用して、SAWSessionService サービス中にログオンしてユーザーの偽装を行います。このメソッドは、管理者の名前とパスワードのみが用意されている場合に複数のユーザーのセッションを作成する必要がある際に便利です。impersonate() メソッドを使用する場合、logon メソッドを使用する必要はありません。

ユーザーの認証や偽装に失敗した場合、例外がスローされます。

シグネチャ

String impersonate(String name, String password, String impersonateID);

引数	説明
String name	ログオンして認証を受けるユーザーのユーザー名を指定します。
String password	ユーザーのパスワードを指定します。ユーザーにパスワードが設定されていない場合は、このフィールドは空（void）にします。
String impersonateID	認証対象となるユーザーの偽装に使用するユーザー名を指定します。

戻り値

このメソッドではセッション ID を返し、HTTP セッション Cookie を設定します。セッション ID は、Oracle BI Web Services セッションを識別するために他のメソッドで使用します。

impersonateex() メソッド

このメソッドを使用して、SAWSessionService サービス中にログオンしてユーザーの偽装を行います。impersonate メソッドと似ていますが、impersonateex ではオプションのセッション・パラメータを指定できます。このメソッドは、管理者の名前とパスワードのみが用意されている場合に複数のユーザーのセッションを作成する必要がある際に便利です。impersonateex() メソッドを使用する場合、logon メソッドを使用する必要はありません。

ユーザーの認証や偽装に失敗した場合、例外がスローされます。

シグネチャ

AuthResult impersonateex(String name, String password, String impersonateID, SAWSessionParameters sessionparams);

引数	説明
String name	ログオンして認証を受けるユーザーのユーザー名を指定します。
String password	ユーザーのパスワードを指定します。ユーザーにパスワードが設定されていない場合は、このフィールドは空（void）にします。
String impersonateID	認証対象となるユーザーの偽装に使用するユーザー名を指定します。

引数	説明
SAWSessionParameters sessionparams	オプションです。使用するセッション・パラメータを SAWSessionParameters 構造体で指定します。SAWSessionParameters 構造体の詳細は、「SAWSessionParameters 構造体」（29 ページ）を参照してください。

戻り値

このメソッドでは、セッション ID を含む AuthResult 構造体を返し、HTTP セッション Cookie も設定されます。セッション ID は、Oracle BI Web Services セッションを識別するために他のメソッドで使用します。詳細は、「AuthResult 構造体」（17 ページ）を参照してください。

keepAlive() メソッド

このメソッドを使用して、Oracle BI Web Services で特定の Web ユーザー・セッションがアクティブ状態でないために終了させないようにします。セッション存続期間におけるこのメソッドの効果は、ユーザーがブラウザで操作（レポートのクリックやメソッドのコールなど）を行った場合と同様です。Web ユーザー・セッションを、アクティブ状態でないために終了させる方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』の「Oracle BI Presentation Services からユーザーを自動ログオフする時間の設定」を参照してください。

シグネチャ

void keepAlive(String[] sessionIDs);

引数	説明
String[] sessionIDs	ログオン状態にあるセッションの ID 配列を指定します。

logoff() メソッド

このメソッドを使用して、Oracle BI Web Services からユーザーをログオフさせます。

シグネチャ

void logoff(String sessionID);

引数	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

logon() メソッド

このメソッドを使用して、ユーザーを認証します。認証に失敗した場合、例外がスローされます。

シグネチャ

String logon(String username, String password)

引数	説明
String username	認証対象となるユーザーのユーザー名を指定します。
String password	ユーザーのパスワードを指定します。パスワードがない場合は、このフィールドは空（void）にします。

戻り値

このメソッドではセッション ID を返し、HTTP セッション Cookie を設定します。セッション ID は、Oracle BI Web Services セッションを識別するために他のメソッドで使用します。

logonex() メソッド

このメソッドを使用して、ユーザーを認証します。logonex() は logon メソッドと似ていますが、logonex ではオプションのセッション・パラメータを指定できます。認証に失敗した場合、例外がスローされます。

シグネチャ

String AuthResult logonex(String username, String password, SAWSessionParameters sessionparams);

引数	説明
String username	認証対象となるユーザーのユーザー名を指定します。
String password	ユーザーのパスワードを指定します。パスワードがない場合は、このフィールドは空（void）にします。
SAWSessionParameters sessionparams	オプションです。使用するセッション・パラメータを SAWSessionParameters 構造体で指定します。SAWSessionParameters 構造体の詳細は、「SAWSessionParameters 構造体」（29 ページ）を参照してください。

戻り値

このメソッドでは、セッション ID を含む AuthResult 構造体を返し、HTTP セッション Cookie も設定されます。セッション ID は、Oracle BI Web Services セッションを識別するために他のメソッドで使用します。

GetSessionEnvironment() メソッド

このメソッドを使用して、現在のセッションの環境オブジェクトを取得します。

シグネチャ

GetSessionEnvironment (String sessionID);

引数	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

このメソッドは、セッション環境オブジェクトを返します（詳細は、「SessionEnvironment 構造体」（29 ページ）を参照）。

SecurityService サービス

このサービスを使用して、アカウントと権限を識別するメソッドを提供します。表 46 にサポートされるメソッドを示します。

表 46. SecurityService のメソッド

メソッド名	説明
forgetAccount() メソッド（54 ページ）	アカウント名のマッピングに対する Oracle BI Web Services 内部 ID を削除します。
getCatalogAccountsDatabase() メソッド（54 ページ）	キャッシュ内のユーザーまたはグループでフィルタされたカタログ・アカウントのリストを取得します。
getGlobalPrivilegeACL() メソッド（55 ページ）	グローバル権限のアクセス制御リストを取得します。
getGlobalPrivileges() メソッド（55 ページ）	すべてのグローバル権限リストを取得します。
getPermissions() メソッド（56 ページ）	指定されたユーザーの権限のリストを取得します。
renameAccount() メソッド（56 ページ）	ユーザー・アカウントの名前を変更します。
updateGlobalPrivilegeACL() メソッド（57 ページ）	グローバル権限のアクセス制御リストを更新します。

forgetAccount() メソッド

このメソッドを使用して、アカウント名のマッピングに対する Oracle BI Web Services 内部 ID を削除します。この操作は、アカウント・マッピングが誤って作成された場合（たとえば、updateGlobalSAWPrivilegeACL メソッドでアカウント名のスペルを間違えた場合）に有用です。

シグネチャ

void forgetAccount(Account account, Integer cleanuplevel, String sessionID);

引数	説明
Account account	削除するアカウントを Account 構造体で指定します。Account 構造体の詳細は、「ACL 構造体」（16 ページ）を参照してください。
Integer cleanuplevel	削除するマッピング情報の量を指定します。内部アカウント ID とユーザーまたはグループの名前からマッピングを削除するには 0 を設定します。アカウントがユーザーを参照している場合にユーザー・ディレクトリを削除するには 1 を設定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

getCatalogAccountsDatabase() メソッド

このメソッドを使用して、キャッシュ内のユーザーまたはグループでフィルタされたカタログ・アカウントのリストを取得します。

シグネチャ

Account[] getCatalogAccountsDatabase(AccountFilter accountFilter, String sessionID)

引数	説明
AccountFilter accountFilter	キャッシュ内のアカウントをフィルタ処理する方法を指定します（詳細は、「AccountsFilter 構造体」（16 ページ）を参照）。たとえば、ユーザーによるフィルタ処理やグループによるフィルタ処理が可能です。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

アカウントの配列を返します。accountsFilter で null 値が指定されている場合、現在の Presentation Services インスタンスでキャッシュされているすべてのアカウントがこのメソッドで返されます。

getGlobalPrivilegeACL() メソッド

このメソッドを使用して、グローバル権限のアクセス制御リストを取得します。

シグネチャ

ACL getGlobalPrivilegeACL(String privilegeName, String sessionID);

引数	説明
String privilegeName	取得する権限の名前を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

アクセス制御リストを ACL 構造体で返します。ACL 構造体の詳細は、「ACL 構造体」（16 ページ）を参照してください。

getGlobalPrivileges() メソッド

このメソッドを使用して、グローバル権限のリストを取得します。

シグネチャ

Privilege[] getGlobalPrivileges(String sessionID);

引数	説明
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

権限情報を Privilege の配列で返します。Privilege 構造体の詳細は、「Privilege 構造体」（22 ページ）を参照してください。

getPermissions() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたアクセス制御リストに基づいて、指定されたユーザーの権限のリストを取得します。

注意：このメソッドは、アクセス制御リストでグループの権限を指定しなくても、ユーザーのセキュリティ・グループにより継承された権限も返します。

シグネチャ

int getPermissions(ACL acl, Account account, String sessionID)

引数	説明
ACL acl	Account account で指定されたユーザーのアクセス制御リストを指定します。
Account account	権限情報が必要なユーザーまたはグループを指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

AccessControlToken 構造体の permissionMask フィールドの権限情報を返します（詳細は、「AccessControlToken 構造体」（15 ページ）を参照）。

renameAccount() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog にあるユーザー・アカウントの名前を変更します。

シグネチャ

Account[] getCatalogAccountsDatabase(AccountFilter accountFilter, String sessionID)

引数	説明
String from	アカウントの変更前の名前を指定します。
String to	アカウントの新しい名前を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

アカウントの配列を返します。accountsFilter で null 値が指定されている場合、現在の Presentation Services インスタンスでキャッシュされているすべてのアカウントがこのメソッドで返されます。

updateGlobalPrivilegeACL() メソッド

このメソッドを使用して、グローバル権限のアクセス制御リストを更新します。

シグネチャ

void updateGlobalPrivilegeACL(String privilegeName, ACL acl, UpdateACLParams updateACLParams, String sessionID);

引数	説明
String privilegeName	更新する権限の名前を指定します。
ACL acl	更新するアクセス制御リストを ACL 構造体で指定します。ACL 構造体の詳細は、「ACL 構造体」（16 ページ）を参照してください。
UpdateACLParams updateACLParams	更新するアクセス制御リストのパラメータを UpdateACLParams 構造体で指定します。UpdateACLParams 構造体の詳細は、「UpdateACLParams 構造体」（30 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

WebCatalogService サービス

このサービスを使用して、Presentation Catalog をナビゲートして管理するメソッドを提供し、Presentation Catalog オブジェクトを XML フォーマットで読み書きします。表 47 にサポートされるメソッドを示します。

表 47. WebCatalogService のメソッド

メソッド名	説明
copyItem() メソッド（59 ページ）	オブジェクトを Presentation Catalog のある場所から別の場所にコピーします。
createFolder() メソッド（60 ページ）	新しいフォルダを Presentation Catalog に作成します。
createLink() メソッド（60 ページ）	Presentation Catalog へのリンクを作成します。
deleteItem() メソッド（61 ページ）	オブジェクトを Presentation Catalog から削除します。
getItemInfo() メソッド（61 ページ）	オブジェクトの Presentation Catalog 情報を取得します。

表 47. WebCatalogService のメソッド

メソッド名	説明
getSubItems() メソッド（62 ページ）	Presentation Catalog においてオブジェクトの子サブ項目のコレクションを取得します。
moveItem() メソッド（62 ページ）	Presentation Catalog のオブジェクトをカタログ内の別の場所に移動します。
readObject() メソッド（63 ページ）	オブジェクトを Presentation Catalog から読み込みます。
readObjects() メソッド（63 ページ）	オブジェクトのリストを Presentation Catalog から読み込みます。
removeFolder() メソッド（64 ページ）	フォルダを Presentation Catalog から削除します。
setItemAttributes() メソッド（65 ページ）	指定されたカタログ項目に属性フラグを設定します。
setItemProperty() メソッド（65 ページ）	Presentation Catalog のオブジェクトにプロパティを設定します。
takeOwnership() メソッド（66 ページ）	指定された項目の所有権を取得します。
updateCatalogItemACL() メソッド（66 ページ）	Presentation Catalog にある項目のアクセス制御リストを更新します。
writeObject() メソッド（67 ページ）	オブジェクトを Presentation Catalog に書き込みます。
writeObjects() メソッド（67 ページ）	オブジェクトのリストを Presentation Catalog に書き込みます。
writeReport() メソッド（68 ページ）	結果のセットを Presentation Catalog に書き込みます。
writeDashboard() メソッド（69 ページ）	ダッシュボード・オブジェクトを Presentation Catalog に書き込みます。
writeDashboardPrompt() メソッド（70 ページ）	ダッシュボード・プロンプトを Presentation Catalog に書き込みます。
writeDashboardPage() メソッド（71 ページ）	ダッシュボード・ページを Presentation Catalog に書き込みます。
writeSavedFilter() メソッド（72 ページ）	フィルタを Presentation Catalog に書き込みます。

ErrorDetailsLevel 列挙型

この列挙型で「WebCatalogService サービス」のメソッドの有効値のリストを指定します。表 48 に、この列挙型の値を示します。

注意：ErrorDetailsLevel の値は 1 つのみを選択する必要があります。

表 48. ErrorDetailsLevel 列挙型の値

値	説明
String ErrorCode	ErrorInfo.errorCode フィールドにデータを読み込むことを指定します。
String ErrorCodeAndText	ErrorInfo.errorCode フィールドと ErrorInfo.message フィールドにデータを読み込むことを指定します。
String FullDetails	すべての ErrorInfo フィールドにデータを読み込むことを指定します。

copyItem() メソッド

このメソッドを使用して、オブジェクトを Presentation Catalog のある場所から別の場所にコピーします。

シグネチャ

void copyItem(String pathSrc, String pathDest, String sessionID);

引数	説明
String pathSrc	Presentation Catalog 内のオブジェクトへの現在のパスを指定します。
String pathDest	オブジェクトのコピー先となる Presentation Catalog 内の場所を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

createFolder() メソッド

このメソッドを使用して、新しいフォルダを Presentation Catalog に作成します。

シグネチャ

void createFolder(String path, boolean createIfNotExists, String sessionID);

引数	説明
String path	フォルダを作成する Presentation Catalog 内の場所を指定しますが、その際に新しいフォルダの名前も含めて指定します。
boolean createIfNotExists	TRUE に設定されると、そのフォルダ・オブジェクトが存在しない場合に Presentation Catalog 内に作成されます。FALSE に設定されると、そのフォルダ・オブジェクトが存在する場合に再作成されません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

createLink() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog へのリンクを作成します。

シグネチャ

void createLink(String sPath, String sTargetPath, boolean overwriteIfExists, String sessionID);

引数	説明
String sPath	Presentation Catalog 内の親オブジェクトへのパスを指定します。
String sTargetPath	作成されるリンクが参照する Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean overwriteIfExists	TRUE に設定されると、リンクが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、リンクが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

deleteItem() メソッド

このメソッドを使用して、オブジェクトを Presentation Catalog から削除します。フォルダを削除するには、「removeFolder() メソッド」（64 ページ）を参照してください。

シグネチャ

void deleteItem(String path, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトへのパスを指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

getItemInfo() メソッド

このメソッドを使用して、オブジェクトの Presentation Catalog 情報を取得します。

シグネチャ

ItemInfo getItemInfo(String path, boolean resolveLinks, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトへのパスを指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、Oracle BI Web Services ではリンクの参照先であるオブジェクトの情報が取得されます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

オブジェクトの Presentation Catalog 情報を ItemInfo 構造体で返します。詳細は、「ItemInfo 構造体」（21 ページ）を参照してください。

getSubItems() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog においてオブジェクトの子サブ項目のコレクションを取得します。

シグネチャ

ItemInfo[] getSubItems(String path, String mask, boolean resolveLinks, GetSubItemsParams options, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内の親オブジェクトへのパスを指定します。
String mask	取得する子サブ項目を示すマスクを指定します。マスク文字はアスタリスク（*）です。すべての子サブ項目を取得するには、単一のアスタリスクを使用します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先であるオブジェクトの子サブ項目の情報が取得されます。
GetSubItemsParams options	オプションです。GetSubItemsParams 構造体に設定するパラメータを指定します。GetSubItemsParams 構造体の詳細は、「GetSubItemsParams 構造体」（19 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

子サブ項目のコレクションを ItemInfo 構造体で返します。詳細は、「ItemInfo 構造体」（21 ページ）を参照してください。

moveItem() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog のオブジェクトを Presentation Catalog の別の場所にコピーします。

シグネチャ

void moveItem(String pathScr, String pathDest, String sessionID);

引数	説明
String pathSrc	Presentation Catalog 内のオブジェクトへの現在のパスを指定します。

引数	説明
String pathDest	オブジェクトの移動先となる Presentation Catalog 内の場所を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

readObject() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog からオブジェクトを読み込み、CatalogObject 構造体を返します。

シグネチャ

CatalogObject readObject(String path, boolean resolveLinks, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトの場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にオブジェクトが書き込まれます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

指定されたオブジェクト（Presentation Catalog から読み込まれたオブジェクト）を含む CatalogObject 構造体を返します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。

readObjects() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog からオブジェクトのリストを読み込みます。

シグネチャ

CatalogObject[] readObjects(String[] paths, boolean resolveLinks, ErrorDetailsLevel errorMode, String sessionID);

引数	説明
String[] paths	Presentation Catalog 内のオブジェクトの場所を指定します。

引数	説明
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にオブジェクトが書き込まれます。
ErrorDetailsLevel errorMode	CatalogObjects 構造体の errorInfo フィールドに出力されるエラー情報の量を指定します。詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

CatalogObjects の配列を返します。

注意：カタログ・オブジェクトの読込み操作に失敗すると（たとえば、パスが無効な場合や権限が適切でない場合など）、そのオブジェクトの errorInfo フィールドにエラー情報が格納されます。

removeFolder() メソッド

このメソッドを使用して、フォルダとその内容を Presentation Catalog から削除します。フォルダとその内容以外のオブジェクトを削除する場合は、「deleteItem() メソッド」（61 ページ）を参照してください。

シグネチャ

void removeFolder(String path, boolean recursive, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のフォルダへのパスを指定します。
boolean recursive	TRUE に設定された場合、指定されたフォルダとその内容を削除します。FALSE に設定された場合、指定されたフォルダが空の場合のみ削除します。空でない場合は例外メッセージが表示されます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

setItemAttributes() メソッド

このメソッドを使用して、指定されたカタログ項目に属性フラグを設定します。

シグネチャ

void setItemAttributes (String path, int attributes, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のフォルダへのパスを指定します。
int attributes	次のフラグを組み合せて指定します。 1: 読取り専用 2: アーカイブ 4: 非表示 8: システム
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

setItemProperty() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog のオブジェクトにプロパティを設定します。

シグネチャ

void setItemProperty(String path, String name, String value, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトへのパスを指定します。
String name	設定するプロパティの名前を指定します。
String value	プロパティの新しい設定値を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

takeOwnership() メソッド

このメソッドを使用して、指定された項目の所有権を取得します。

シグネチャ

void takeOwnership(String path, boolean recursive, String sessionID);

引数	説明
String path	所有権の取得対象となるオブジェクトが存在する Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean recursive	TRUE に設定された場合、この操作は指定されたフォルダとその内容に対して適用されます。FALSE に設定された場合、指定されたフォルダが空の場合のみこの操作がフォルダに適用されます。空でない場合は例外メッセージが表示されます。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

updateCatalogItemACL() メソッド

このメソッドを使用して、Presentation Catalog 内の項目のアクセス制御リストを更新します。

シグネチャ

void updateCatalogItemACL(String path, ACL acl, UpdateCatalogItemACLParams options, String sessionID);

引数	説明
String path	Presentation Catalog 内のオブジェクトへのパスを指定します。
ACL acl	アクセス制御リストを指定します。詳細は、ACL 構造体（16 ページ）を参照してください。
UpdateCatalogItemACLParams options	追加パラメータを指定します。詳細は、「UpdateCatalogItemACLParams 構造体」（31 ページ）を参照してください。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeObject() メソッド

このメソッドを使用して、オブジェクトを Presentation Catalog に XML フォーマットで書き込みます。

シグネチャ

void writeObject(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むオブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に COXmlDocument1 です。
String path	オブジェクトを書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスにでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にオブジェクトが書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeObjects() メソッド

このメソッドを使用して、オブジェクトの配列を Oracle BI Web Services Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

ErrorInfo[] writeObjects(CatalogObject[] catalogObjects, boolean allowOverwrite, ErrorDetailsLevel errorMode, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject[] object	Presentation Catalog に書き込むオブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に COXmlDocument1 です。

引数	説明
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
ErrorDetailsLevel errorMode	CatalogObjects 構造体の errorInfo フィールドに出力されるエラー情報の量を指定します。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

戻り値

ErrorInfo オブジェクトの配列です。

writeReport() メソッド

このメソッドを使用して、結果のセットを Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

void writeReport(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むオブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に queryitem1 です。
String path	結果を書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所に結果が書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、結果が Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、結果が Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeDashboard() メソッド

このメソッドを使用して、ダッシュボード・オブジェクトを Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

void writeDashboard(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むダッシュボード・オブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に dashboarditem1 です。
String path	ダッシュボード・オブジェクトを書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にダッシュボード・オブジェクトが書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、ダッシュボード・オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、ダッシュボード・オブジェクトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeDashboardPrompt() メソッド

このメソッドを使用して、ダッシュボード・プロンプトを Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

void writeDashboardPrompt(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むダッシュボード・プロンプト・オブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に globalfilteritem1 です。
String path	ダッシュボード・プロンプトを書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にダッシュボード・プロンプトが書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、ダッシュボード・プロンプトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、ダッシュボード・プロンプトが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeDashboardPage() メソッド

このメソッドを使用して、ダッシュボード・ページを Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

void writeDashboardPage(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むダッシュボード・ページ・オブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に dashboardpageitem1 です。
String path	ダッシュボード・ページを書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にダッシュボード・ページが書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、ダッシュボード・ページが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、ダッシュボード・ページが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

writeSavedFilter() メソッド

このメソッドを使用して、フィルタを Presentation Catalog に書き込みます。

シグネチャ

void writeSavedFilter(CatalogObject object, String path, boolean resolveLinks, boolean allowOverwrite, String sessionID);

引数	説明
CatalogObject object	Presentation Catalog に書き込むフィルタ・オブジェクトを CatalogObject 構造体で指定します。CatalogObject 構造体の詳細は、「CatalogObject 構造体」（18 ページ）を参照してください。 object.itemInfo のすべてのフィールド（項目プロパティの配列を除く）は無視されます。この配列はオブジェクトに適用されます。結果のドキュメントのシグネチャは、常に savedfilteritem1 です。
String path	フィルタを書き込む Presentation Catalog 内の場所を指定します。
boolean resolveLinks	TRUE に設定された場合、Presentation Catalog のパスでリンクが参照されると、リンクの参照先である場所にフィルタが書き込まれます。
boolean allowOverwrite	TRUE に設定されると、フィルタが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされます。FALSE に設定されると、フィルタが Presentation Catalog に存在する場合に上書きされません。
String sessionID	セッション ID を指定します。この ID は通常、logon メソッドによって返されます。SOAP クライアント・エンジンで HTTP Cookie を処理できる場合、セッション ID を省略したり null に設定することができます。

XMLViewService サービス

このサービスを使用して、Oracle BI Web Services から結果を XML フォーマットで取得します。表 49 にサポートされるメソッドを示します。

表 49. XMLViewService のメソッド

メソッド名	説明
「cancelQuery() メソッド」	現在のクエリーを取り消します。
「executeSQLQuery() メソッド」	SQL クエリーを実行します。
「executeXMLQuery() メソッド」	XML クエリーを実行します。
「fetchNext() メソッド」	データ行の次のページを返します。

XMLQueryOutputFormat 列挙型

この列挙型で executeSQLQuery() メソッドと executeXMLQuery() メソッドの有効値のリストを指定します。たとえば、データ行とメタデータを返すようにすることも、データ行のみを返すようにすることもできます。表 50 に、この列挙型の値を示します。

注意： XMLQueryOutputFormat の値は 1 つのみを選択できます。

表 50. XMLQueryOutputFormat 列挙型の値

値	説明
String SAWRowsetData	クエリーでデータ行のみを返すことを指定します。
String SAWRowsetSchema	クエリーでメタデータのみを返すことを指定します。
String SAWRowsetSchemaAndData	クエリーでメタデータとデータ行の両方を返すことを指定します。

cancelQuery() メソッド

このメソッドを使用して、クエリーを取り消して、そのクエリーに関するリソースをクリーンアップします。このメソッドは、返されたデータセットの最後の行にクエリーの行セットがスクロールされない場合にのみ使用する必要があります。

注意： 返されたデータセットの最後の行にクエリーの行セットがスクロールされる場合にこのメソッドを使用すると、クエリーのデータは最後の fetchNext メソッドのコール中にクリーンアップされます。

シグネチャ

QueryResults cancelQuery(String queryID, String sessionID);

引数	説明
String queryID	一意のクエリー ID を指定します。
String sessionID	一意のセッション ID を指定します。

executeSQLQuery() メソッド

このメソッドを使用して、SQL クエリーを実行し、そのクエリーの結果を返します。

注意： 返される結果でページ数が 1 ページを超える場合は、fetchNext() メソッドを使用して、行の次のページを返す必要があります。

シグネチャ

QueryResults executeSQLQuery(String sql, XMLQueryOutputFormat outputFormat, XMLQueryExecutionOptions executionOptions, String sessionID);

引数	説明
String sql	実行する SQL コードの文字列を指定します。
XMLQueryOutputFormat outputFormat	出力フォーマットを指定します（詳細は、32 ページを参照）。
XMLQueryExecutionOptions executionOptions	クエリー実行オプションを指定します（詳細は、「XMLQueryExecutionOptions 構造体」（32 ページ）を参照）。
String sessionID	一意のセッション ID を指定します。

戻り値

クエリーの結果を QueryResults 構造体で 1 行以上のデータとして返します（詳細は、「QueryResults 構造体」（22 ページ）を参照）。

executeXMLQuery() メソッド

このメソッドを使用して、XML クエリーを実行し、そのクエリーの結果を返します。

注意：返される結果でページ数が 1 ページを超える場合は、fetchNext() メソッドを使用して、行の次のページを返す必要があります。

シグネチャ

QueryResults executeXMLQuery(ReportRef report, XMLQueryOutputFormat outputFormat, XMLQueryExecutionOptions executionOptions, ReportParams reportParams, String sessionID);

引数	説明
ReportRef reportRef	レポート定義を ReportRef 共通構造体で指定します。 詳細は、「ReportRef 構造体」（25 ページ）を参照してください。
XMLQueryOutputFormat outputFormat	出力フォーマットを指定します（詳細は、32 ページを参照）。
XMLQueryExecutionOptions executionOptions	クエリー実行オプションを指定します（詳細は、「XMLQueryExecutionOptions 構造体」（32 ページ）を参照）。

引数	説明
ReportParams reportParams	オプションです。実行前にレポートに適用するフィルタまたは変数を、ReportParams 共通構造体で指定します。ReportParams 構造体の詳細は、「ReportParams 構造体」（24 ページ）を参照してください。
String sessionID	一意のセッション ID を指定します。

戻り値

クエリーの結果を QueryResults 構造体で 1 行以上のデータとして返します（詳細は、「QueryResults 構造体」（22 ページ）を参照）。

fetchNext() メソッド

このメソッドを使用して、クエリーで取得した行の次のページを返します。

注意：返されるページに行が含まれていない場合もあります。終了フラグが設定されていない場合、残りの行は即座に使用できない場合があります。

シグネチャ

QueryResults fetchNext(String queryID, String sessionID);

引数	説明
String queryID	一意のクエリー ID を指定します。これは QueryResults オブジェクトで返されます。
String sessionID	一意のセッション ID を指定します。

戻り値

クエリーの結果の次のページを QueryResults 構造体で 1 行以上のデータとして返します（詳細は、「QueryResults 構造体」（22 ページ）を参照）。

5 返されるレコードセットのフォーマット

これは、Oracle BI Web Services 行セット XML 出力の基本構造です。

```
<Recordset xmls="OracleBI NS" >

     <xsd::schema xsd = ...>
          .
          .
          .
     <xsd::schema>

     <row>

            <column1>value1</column1>

            <column2>value2</column2>

     </row>

     <row>...</row>

     <row>...</row>

</Recordset>
```

各行要素には、1 つの SQL レコードのコンテンツが含まれます。行の子要素には、レコード・フィールドの値が含まれます。レコードセット XML には、オプションで行要素のフォーマットを記述する XSD スキーマを含めることができます。

6 コードの例

次の C# コードの例では、Oracle BI Web Services を使用して、Presentation Catalog 情報を抽出し XML ファイルに書き込みます。

注意：アプリケーション開発環境では 1 行で表示されるコードが、印刷またはオンラインで表示した場合に、ページやウィンドウのサイズ制限により複数行で出力される場合があります。

```
using System;
using System.IO;
using System.Web;

using CatalogExport.SAWServices;

namespace CatalogExport
{
   /// <summary>
   /// Summary description for Class1.
   /// </summary>
   class CatalogExport
   {
      static private System.Net.CookieContainer cookies = new
System.Net.CookieContainer ();
      static private SAWSessionService m_session = new SAWSessionService ();
      static private WebCatalogService m_WebCatalogService = new WebCatalogService();
      static int m_nCurFileIndex=0;
      static StreamWriter m_curFile = null;
      static int m_nFileMaxlen=1024*1024*5;
      static String m_strExportDir=null;
      static String m_strFilePrefix="catalog";

      static void openFile()
      {
         if (m_curFile== null || m_curFile.BaseStream.Length > m_nFileMaxlen)
         {
            if (m_curFile != null )
            {
               m_curFile.WriteLine("</CatalogRoot>");
               m_curFile.Close();
            }
            String strNewPath = m_strExportDir + "\\" + m_strFilePrefix +
(++m_nCurFileIndex) + ".xml";
            m_curFile = new StreamWriter(strNewPath);
            m_curFile.WriteLine("<CatalogRoot>");
         }
      }
      /// <summary>
      /// The main entry point for the application.
      /// </summary>
      [STAThread]
```

```
static void Main(String[] args)
{
   String strURL="http://localhost/analytics/saw.dll";
   String strUser="Administrator";

   String strPWD="";

   for (int i=0;i<args.Length;++i)
   {
      if (args[i].Equals("/URL"))
         strURL = args[++i];
      else if (args[i].Equals("/USER"))
         strUser =  args[++i];
      else if (args[i].Equals("/PWD"))
         strPWD =  args[++i];
      else if (args[i].Equals("/DIR"))
         m_strExportDir =  args[++i];
      else if (args[i].Equals("/?"))
      {
         printUsage();
         return;
      }
   }

   if (m_strExportDir == null)
   {
      printUsage();
      return;
   }
   Directory.CreateDirectory(m_strExportDir);
   //let all services  use the same cookie container - so all of them
   //would have access to Session cookie
   m_WebCatalogService.CookieContainer  = cookies;
   m_session.CookieContainer  = cookies;
   m_session.Url = strURL + "?SoapImpl=nQSessionService";
   m_WebCatalogService.Url = strURL + "?SoapImpl=webCatalogService";
   String sessionID = m_session.logon(strUser,strPWD);
   try
   {
      processCatalogFolder("/",sessionID);
   }
   finally
   {
      if (m_curFile != null )
      {
         m_curFile.WriteLine("</CatalogRoot>");
         m_curFile.Close();
      }
   }

}

static void processCatalogFolder(String path,String sessionID)
```

```
      {
         ItemInfo[] arrChilds =
m_WebCatalogService.getSubItems(path,"*",false,null,sessionID);
         foreach (ItemInfo info in arrChilds)
         {
            switch (info.type)
            {
               case ItemInfoType.Folder:
                  try
                  {
                     processCatalogFolder(info.path,sessionID);
                  }
                  catch (Exception e)
                  {
                     Console.WriteLine(e.Message);
                  }

                  continue;
               case ItemInfoType.Object:
               {
                  if (!isKnownSignature(info.signature))
                     continue;
                  openFile();
                  CatalogObject co =
m_WebCatalogService.readObject(info.path,true,sessionID);
                  m_curFile.WriteLine("<CatalogObj path=\"" +
HttpUtility.HtmlEncode(info.path) + "\" signature=\"" + info.signature +"\">");
                  m_curFile.WriteLine(co.catalogObject.ToString());
                  m_curFile.WriteLine("</CatalogObj>");
                  break;
               }
            }
         }

      }

      static bool isKnownSignature(String strSignature)
      {
         return strSignature=="dashboardpageitem1" ||
               strSignature=="dashboarditem1" ||
               strSignature=="queryitem1"  ||
               strSignature=="dashboarditem1" ||
         strSignature=="globalfilteritem1"  ||
         strSignature=="filteritem1" ||
         strSignature=="COXmlDocument1";
      }
      static void printUsage()
      {
         Console.WriteLine("CatalogExport /DIR exportdir [/USER usename] [/PWD
password] [/URL serverurl]");
      }sw
   }
}
```

索引

記号

_import() メソッド 46

A

Access Denied 例外 12
AccessControlToken 構造体 15
AccountsFilter 構造体 16
Account 構造体 16
ACL 構造体 16
addReportToPage() メソッド 35
AggregationRule 値 26
API、Oracle BI Web Services によるデータの抽出と配信 10
applyReportParams() メソッド 47
AuthResult 構造体 17

C

cancelQuery() メソッド 73
CatalogItemsFilter 構造体 17
CatalogObject 構造体 18
copyItem() メソッド 59
createFolder() メソッド 60
createLink() メソッド 60

D

deleteItem() メソッド 61
describeColumn() メソッド 41
describeSubjectArea() メソッド 42
describeTable() メソッド 43

E

endPage() メソッド 36
ErrorDetailsLevel 構造体 59
ErrorInfo 構造体 18
Excel 12
executeIBotNow() メソッド 40
executeSQLQuery() メソッド 73
executeXMLQuery() メソッド 74
export() メソッド 45
ExportImportFlags 構造体 19

F

fetchNext() メソッド 75
forgetAccount() メソッド 54

G

generateReportSQL() メソッド 48
getCatalogAccountsDatabase() メソッド 54
getCommonBodyHTML() メソッド 37
getCurUser() メソッド 49
getGlobalPrivilegeACL() メソッド 55
getGlobalPrivileges() メソッド 55
getHeadersHTML() メソッド 37
getHTMLForReport() メソッド 38
getItemInfo() メソッド 61
getPermissions() メソッド 56
GetSubItemsParams 構造体 19
getSubItems() メソッド 62
getSubjectAreas() メソッド 44

H

HtmlViewService
サービス 34
ブリッジ 35

I

iBotService
サービス 40
impersonate() メソッド 50
impersonateex() メソッド 50
import() メソッド 46
ImportError 構造体 20
ItemInfo 構造体 21

K

keepAlive() メソッド 51
kmsgLicenseOfficeIntegration 12
kmsgLicenseSOAPAccess 12

L

logoff() メソッド 51
logon() メソッド 52
logonex() メソッド 52

M

markForReplication() メソッド 47
MetadataService サービス 41
Microsoft Excel 12
Microsoft Visual Studio 11
Microsoft Visual Studio からの SOAP API へのア

クセス 11
moveItem() メソッド 62

N
NameValuePair 構造体 22
Not Licensed エラー 12

O
Oracle BI Web Services、データの抽出と配信に使用 10
Oracle Business Intelligence の統合、Oracle BI Web Services によるデータの抽出と配信 10

P
Privilege 構造体 22

Q
QueryResults 構造体 22

R
readObject() メソッド 63
readObjects() メソッド 63
removeFolder() メソッド 64
ReplicationService
サービス 45
ReportEditingService
サービス 47
ReportHTMLOptions 構造体 23
ReportParams 構造体 24
ReportRef 構造体 25

S
SAColumn 構造体 25
SADataType 値 26
SASubjectAreaDetails() メソッド 42
SASubjectArea 構造体 27
SATablesDetails() メソッド 44
SATable 構造体 28
SAWLocale 構造体 28
SAWSessionParameters 構造体 29
SAWSessionService
サービス 49
SecurityService
サービス 53
sessionEnvironment() メソッド 53
SessionEnvironment 構造体 29
setBridge() メソッド 35, 38
setItemAttributes() メソッド 65
setItemProperty() メソッド 65
Simple Object Access Protocol、データの抽出と配信に使用 10
SOAP ライセンス 12
startPage() メソッド 39
StartPageParams 構造体 30

T
takeOwnership() メソッド 66

U
UpdateACLMode 構造体 31
UpdateACLParams 構造体 30
updateCatalogItemACL() メソッド 66
UpdateCatalogItemACLParams 構造体 31
updateGlobalPrivilegeACL() メソッド 57
URL、コールバック 35

V
Variable 構造体 32

W
WebCatalogService サービス 57
writeDashboard() メソッド 69
writeDashboardPage() メソッド 71
writeDashboardPrompt() メソッド 70
writeObject() メソッド 67
writeObjects() メソッド 67
writeReport() メソッド 68
writeSavedFilter() メソッド 72

X
XMLQueryExecutionOptions 構造体 32
XMLQueryOutputFormat 構造体 73
XMLViewService サービス 72

あ
エラー・メッセージ
Access Denied 12
Not Licensed 12

か
権限 12
構造体 13
AccessControlToken 15
Account 16
AccountsFilter 16
ACL 16
AuthResult 17
CatalogItemsFilter 17
CatalogObject 18
ErrorDetailsLevel 59
ErrorInfo 18
ExportImportFlags 19
GetSubItemsParams 19

ImportError 20
ItemInfo 21
NameValuePair 22
Privilege 22
QueryResults 22
ReportHTMLOptions 23
ReportParams 24
ReportRef 25
SAColumn 25
SASubjectArea 27
SATable 28
SAWLocale 28
SAWSessionParameters 29
SessionEnvironment 29
StartPageParams 30
UpdateACLMode 31
UpdateACLParams 30
UpdateCatalogItemACLParams 31
Variable 32
XMLQueryExecutionOptions 32
XMLQueryOutputFormat 73
項目シグネチャ 10
コールバック URL
置換 39
変更 35

さ

サービス
HtmlViewService 34
iBotService 40
MetadataService 41
ReplicationService 45
ReportEditingService 47
SAWSessionService 49
SecurityService 53
WebCatalogService 57
XMLViewService 72
シグネチャ、概要 10

た

ドリルダウン・リンク 35

ま

メソッド
_import() 46
addReportToPage() 35
applyReportParams() 47
cancelQuery() 73
copyItem() 59
createFolder() 60
createLink() 60
deleteItem() 61
describeColumn() 41
describeSubjectArea() 42
describeTable() 43
endPage() 36
executeIBotNow() 40
executeSQLQuery() 73
executeXMLQuery() 74
export() 45
fetchNext() 75
forgetAccount() 54
generateReportSQL() 48
getCatalogAccountsDatabase() 54
getCommonBodyHTML() 37
getCurUser() 49
getGlobalPrivilegeACL() 55
getGlobalPrivileges() 55
getHeadersHTML() 37
getHTMLForReport() 38
getItemInfo() 61
getPermissions() 56
getSubItems() 62
getSubjectAreas() 44
impersonate() 50
impersonateex() 50
import 46
keepAlive() 51
logoff() 51
logon() 52
logonex() 52
markForReplication() 47
moveItem() 62
readObject() 63
readObjects() 63
removeFolder() 64
SASubjectAreaDetails() 42
SATablesDetails() 44
sessionEnvironment() 53
setBridge() 38
setBridge()、コールバック URL のために使用 35
setItemAttributes() 65
setItemProperty() 65
startPage() 39
takeOwnership() 66
updateCatalogItemACL() 66
updateGlobalPrivilegeACL() 57
writeDashboard() 69
writeDashboardPage() 71
writeDashboardPrompt() 70
writeObject() 67
writeObjects() 67
writeReport() 68
writeSavedFilter() 72

ら

ライセンス 12
例外、Access Denied 12